

令和5年度

事業報告

日本赤十字社滋賀県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

はじめに	1
I 支部事業・一般会計決算概要	2
1 新型コロナウイルス感染症への対応	2
(1) 滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへの支援	2
(2) 無症状者・軽症者向け宿泊療養施設への医療従事者の派遣	2
(3) 県内赤十字医療施設に対する支援	2
2 評議員会並びに監査等の実施	3
(1) 評議員会の開催	3
(2) 監査委員による監査の実施	3
(3) 日本赤十字社理事会・代議員会	4
(4) 支部名誉職員名簿	5
3 全国赤十字大会	6
4 会議・職員研修会の開催	6
(1) 会議の開催	6
(2) 地区分区赤十字事務打ち合わせ会	7
(3) 職員研修会の開催	7
5 会員増強運動の推進と実績	8
(1) 会員増強運動の推進	8
(2) 令和5年度活動資金募集実績	8
(3) 活動資金募集にかかる主な取り組みと実績	10
(4) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進	11
(5) 赤十字会員数	12
(6) 有功章等受章者件数	12
6 災害救護活動	12
(1) 能登半島地震における救護班等の派遣状況	12
(2) 災害救援物資及び弔慰金の配分状況	13
(3) 義援金、海外支援金の受付状況	13
(4) 救護資機材の整備	14
(5) 訓練及び研修	14
(6) 救護員の登録状況	16
(7) 救護資材整備状況及び救援物資備蓄状況	16
7 赤十字救急法・健康生活支援講習等の講習普及	16
(1) 救急法	16
(2) 健康生活支援講習	17
(3) 幼児安全法	17
(4) 水上安全法	17
(5) 指導員の養成	17
(6) 講習指導員の研修	17

(7) 各種講習指導員数	17
(8) 防災教育の普及	18
(9) 滋賀県安全法指導員協議会	18
8 赤十字奉仕団	19
(1) 設団状況	19
(2) 地域赤十字奉仕団の活動	19
(3) 青年赤十字奉仕団の活動	25
(4) 滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動	25
(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動	27
(6) 個人ボランティア	28
9 青少年赤十字	28
(1) 加盟校の状況	28
(2) 青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催	29
(3) 本社及びブロック主催の講習会、研修会開催状況	29
(4) 支部主催のトレーニングセンター開催状況	29
(5) その他の会議・行事等	30
(6) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業	30
(7) 青少年赤十字機関紙「JRCしが」の発行	31
10 看護師の教育	31
11 国際活動	31
(1) 「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施	31
(2) 第4ブロック合同国際人道法普及研修への参加	31
12 赤十字思想の普及	32
(1) 本社作成の広報資材の配布	32
(2) 支部作成の広報資材の配布	32
(3) 主な広報活動	32
(4) 赤十字体験バスの開催	34
(5) 「ACTION！防災・減災」の実施	34
13 有功会	35
(1) 会員の数（個人・法人）	35
(2) 事業内容	35
14 一般会計決算概要	37
II 医療事業・医療施設特別会計決算概要	38
1 大津赤十字病院	38
2 大津赤十字志賀病院	41
3 長浜赤十字病院	44
III 血液事業概要	47
滋賀県赤十字血液センター	47

はじめに

近年は、全国各地で、地震が頻発するとともに、夏季を中心に集中豪雨が多発し、多くの被害が出ています。そして、被害は、広域化、激甚化する傾向にあります。

こうした中、本年1月1日には、能登半島を最大震度7の地震が襲い、石川県等では、多くの方がお亡くなりになるとともに、住家の倒壊や停電、断水等の生活基盤となる社会インフラ等にも甚大な被害が発生しました。

日本赤十字社では、発災直後から、総力を挙げて、救護班の派遣や救援物資の配布等の活動を開始しました。また、滋賀県支部におきましても、発災の翌日には現地に救護班を派遣するとともに、その後も継続的に県内3つの病院から救護班や災害医療コーディネーターチーム、こころのケアチームなどを派遣し、被災者の医療救護やこころのケアのほか、避難所における衛生管理など、被災者に寄り添った支援活動を行ってまいりました。

一方、ウクライナやイスラエル・ガザなどでは深刻な人道危機が発生するとともに、世界の各地では大地震や洪水などの自然災害が発生し、飢餓や生活困窮に苦しむ多くの方がおられます。こうした地域には、日本赤十字社から職員を派遣し支援活動を行うとともに、皆様からお預かりした海外救援金は、避難民や被災者への支援や医薬品の提供などに役立てています。

こうした活動に対して、多くの県民の皆様や企業・団体の方々からは、励ましのメッセージなど様々な形でご支援をいただき、第一線の職員には大変大きな支えとなっています。

日本赤十字社は、今後とも、社会情勢の変化を見据えながら、歴史と伝統ある赤十字の歩みを止めることなく、私たちの活動に期待し、信頼を寄せてくださる多くの方々の想いに応えられるよう、「人道」を基本理念にした活動を積極的に展開してまいります。

赤十字活動を財政面で支えていただいている赤十字会員の皆様、活動推進の担い手である赤十字奉仕団等のボランティアの皆様、赤十字活動を総合的に支えていただいている地区・分区等関係者の皆様、並びに多くの県民の皆様には、日頃からの力強いご支援に心から感謝申し上げます。

ここに、令和5年度の日本赤十字社滋賀県支部の事業報告をいたしますとともに、引き続き皆様からの温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年5月

日本赤十字社滋賀県支部

I 支部事業・一般会計決算概要

1 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症は、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」とされていましたが、令和5年5月8日からは「5類感染症」に位置付けられました。これに伴い、滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへの支援並びに宿泊療養施設への医療従事者の派遣においては令和5年9月末をもって終了となりましたが、赤十字医療施設では新型コロナウイルス感染症を含む感染症の拡大を防ぐため、引き続き対応を行いました。

滋賀県支部及び赤十字医療施設は、令和4年度に続き次の活動を実施しました。

(1) 滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへの支援

滋賀県からの要請に基づき、感染者の入院先調整業務等を支援するため、以下のとおり滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへ大津・長浜の各赤十字病院から職員を派遣しました。

派遣期間	施設名	活動場所	人数
4月1日～9月30日	大津赤十字病院	滋賀県危機管理センター	医師34人、看護師8人、業務調整員14人
4月1日～9月30日	長浜赤十字病院	滋賀県危機管理センター	看護師4人

※派遣人数は延べ数

(2) 無症状者・軽症者向け宿泊療養施設への医療従事者の派遣

滋賀県からの要請に基づき、軽症者等の宿泊療養施設（大津市）での受け入れ支援のため、大津赤十字病院から職員を派遣しました。

派遣期間	施設名	活動場所	人数
4月1日～9月30日	大津赤十字病院	大津市	医師27人

※派遣人数は延べ数

(3) 県内赤十字医療施設に対する支援

滋賀県支部は、感染症患者を受け入れ続け治療にあたる県内赤十字医療施設の新型コロナウイルス感染への対応を強化するため、感染症対策に必要な資機材の購入等に対して資金の支援を行いました。

- ア 大津赤十字病院 150万円
- イ 大津赤十字志賀病院 150万円
- ウ 長浜赤十字病院 200万円

2 評議員会並びに監査等の実施

(1) 評議員会の開催

開催日	会場	議案等
(第1回) 令和5年6月12日	滋賀県農業教育 情報センター	第1号議案 令和4年度事業報告及び歳入歳出決算について (監査委員監査報告書を添付)
(第2回) 令和6年2月6日	滋賀県農業教育 情報センター	第1号議案 令和6年度事業計画について 第2号議案 令和6年度歳入歳出予算について 第3号議案 役員の選出について

(2) 監査委員による監査の実施

令和4年度の業務の管理及び執行並びに会計について監査委員による監査を実施しました。

(日本赤十字社が会計の監査を委託している監査法人の監査概要を添付(ただし滋賀県赤十字血液センターは除く))

監査対象施設

日本赤十字社滋賀県支部

大津赤十字病院

大津赤十字志賀病院

長浜赤十字病院

滋賀県赤十字血液センター(滋賀県赤十字血液センターは、業務監査のみ実施)

監査実施日

令和5年6月6日(火)

監査実施場所

日本赤十字社滋賀県支部会議室

(3) 日本赤十字社理事会・代議員会

名 称	開催日	会 場	理事・ 代議員名	内 容
日本赤十字社 理事会	6月23日 (金)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口理事	I 付議事項 1. 規則の改正について (1) 日本赤十字社看護師養成規則 の一部改正 2. 神奈川ライトセンターの受託廃 止について 3. 第102回代議員会に付議する事項 について (1) 役員の選出 (2) 令和4年度事業報告及び収支 決算の承認 II 報告事項 1. 社長が決定した補正予算につい て
日本赤十字社 第102回代議員会	6月23日 (金)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口代議員 中村代議員	第1号議案 役員選出について 第2号議案 令和4年度事業報告及び収支決算の 承認について 報告事項 (1) 青少年赤十字創設100周年記念事 業について
日本赤十字社 理事会	11月22日 (水)	日本赤十 字社本社	坂口理事	I 報告事項 1. 令和5年度上半期事業報告につ いて 2. 大阪・関西万博への出展につい て 3. 最近の国際活動における主な動 きと令和5年度NHK海外たすけ あいについて 4. 未曾有の感染を振り返って (1) コロナ禍における職員支援の 実際について (2) コロナとの闘い。そして、そ の先へ 5. 社長が決定した補正予算につい て
日本赤十字社 理事会	3月15日 (金)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口理事	I 付議事項 1. 第103回代議員会に付議する事項 について (1) 役員の選出 (2) 令和6年度事業計画 (3) 令和6年度収支予算 II 報告事項 1. 令和6年能登半島地震にかかる 日本赤十字社の活動等について

日本赤十字社 第103回代議員会	3月15日 (金)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口代議員 中村代議員	第1号議案 役員の選出について 第2号議案 令和6年度事業計画につ いて 第3号議案 令和6年度収支予算につ いて 報告事項 令和6年能登半島地震に かかる活動報告について
---------------------	--------------	--------------------	----------------	--

(4) 支部名誉職員名簿

令和6年3月31日現在

役 職	氏 名	備 考
支 部 長	三日月 大 造	滋賀県知事
副 支 部 長	江 島 宏 治	滋賀県副知事
〃	小 椋 正 清	滋賀県市長会長・東近江市長
〃	伊 藤 定 勉	滋賀県町村会長・豊郷町長
本 社 理 事	坂 口 康 一	近江鍛工株式会社代表取締役会長
本 社 代 議 員	坂 口 康 一	近江鍛工株式会社代表取締役会長
〃	中 村 美尾枝	赤十字奉仕団滋賀県支部委員会顧問
支部監査委員	北 村 嘉 英	草津電機株式会社代表取締役会長
〃	藤 本 武 司	元滋賀県代表監査委員
評 議 員	前 川 賢 慈	大津市地区 選出
〃	竹 内 俊 彦	〃
〃	八 軒 艶 子	〃
〃	和 田 裕 行	彦根市地区 選出
〃	磯 谷 直 一	〃
〃	浅 見 宣 義	長浜市地区 選出
〃	山 口 幸 代	〃
〃	小 西 理 子	近江八幡市地区 選出
〃	高 木 富砂子	〃
〃	橋 川 涉	草津市地区 選出
〃	清 水 和 廣	〃
〃	川 那 辺 守 雄	守山市地区 選出
〃	岸 年 江	〃
〃	竹 村 健	栗東市地区 選出
〃	芝 原 道 子	〃
〃	岩 永 裕 貴	甲賀市地区 選出
〃	林 善 彦	〃
〃	栢 木 進	野洲市地区 選出
〃	生 田 邦 夫	湖南市地区 選出
〃	福 井 正 明	高島市地区 選出
〃	小 椋 正 清	東近江市地区 選出
〃	大 塚 ふ さ	〃
〃	大 平 尾 道 雄	米原市地区 選出
〃	西 田 秀 治	東近江地区 選出
〃	有 村 国 知	湖 東 地 区 選出
〃	寺 本 純 二	〃
〃	大 岡 紳 浩	支 部 長 選出
〃	高 木 富砂子	〃
〃	森 川 茂 樹	〃
〃	大 道 良 夫	〃

滋賀県健康医療福祉部長
赤十字奉仕団滋賀県支部委員会委員長
滋賀県青少年赤十字指導者協議会長
日本赤十字社滋賀県支部有功会長

(敬称略)

3 全国赤十字大会

名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席を賜り、5月18日に、東京都渋谷区の明治神宮会館において、来賓、赤十字会員の代表など約1,600人の出席のもと全国赤十字大会が開催されました。

式典では、国家斉唱、社長あいさつに続き、名誉総裁から赤十字事業の推進に尽力された会員の代表13人に有功章の授与が行われました。

滋賀県支部からは、社長表彰受彰者1人のほか、有功会員3人、有功章社員1人、奉仕団関係者4人、地区会員代表4人、施設職員2人、支部職員3人の計18人が出席しました。

4 会議・職員研修会の開催

(1) 会議の開催

ア 地区区分及び施設職員を対象とした会議

名称	開催日	会場	対象及び出席者数	内容
赤十字事務担当主任者会議	4月18日 (火)	滋賀県農業教育情報センター	日赤事務担当主任者 18人	<ol style="list-style-type: none"> 1 赤十字のしくみと活動 2 新型コロナウイルス感染症への対応について 3 令和5年度事業計画及び歳入歳出予算の概要 4 地区・分区における業務について 5 その他
赤十字施設業務連絡会議	6月2日 (金) (文書審議)	—	支部事務局長、施設事務部長(血液センターは事業部長)及び支部・各施設の人事総務担当課長等 計15人	<ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染症への対応 2 本年度支部監査委員による監査 3 職員研修 <ol style="list-style-type: none"> ① 滋賀県支部主催研修 ② 第4ブロック主催研修 ③ 本社主催研修 4 寄付金付自動販売機の設置及び寄付実績 5 令和5年度災害救護訓練予定 6 令和5年度赤十字救急法等講習の普及 7 今後の予定等 <ul style="list-style-type: none"> ・評議員会の開催 ・支部有功会総会の開催
赤十字施設業務連絡会議	12月12日 (火)	日本赤十字社滋賀県支部会議室	支部事務局長、施設事務部長(血液センターは事業部長)、及び支部・各施設の人事総務担当課長等 計15人	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和6年度滋賀県支部・赤十字施設の監査の実施 2 職員研修 <ol style="list-style-type: none"> ① 滋賀県支部主催研修 ② 第4ブロック主催研修 ③ 本社主催研修 ④ その他 3 指定事業社資を活用した救護資機材整備計画 4 その他 <ol style="list-style-type: none"> ① 寄付金付自動販売機の設置状況 ② 全国赤十字大会への施設長等の参加 ③ 令和6年度災害救護訓練予定 ④ 大阪・関西万博について 5 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度評議員会

赤十字事務担当課長(幹事)会議	12月8日 (金)	日本赤十字社 滋賀県支部会議室	担当課長等13人	1 令和5年度の主な取り組みについて 2 令和5年度活動資金募集進展状況について 3 令和6年度主要事業計画(案)について 4 令和6年度赤十字奉仕団主要事業計画(案)について 5 赤十字奉仕団の役員の改選について
-----------------	--------------	--------------------	----------	---

(2) 地区分区赤十字事務打ち合わせ会

支部職員が地区分区を訪問し、赤十字活動にかかる情報共有を行うとともに、地区分区交付金の管理、救援物資の在庫状況等の確認を行いました。

訪問日	地区分区	出席者数
9月4日(月)	近江八幡市	地区担当者 2人 支部職員 2人
	東近江地区	地区担当者 1人 支部職員 2人
9月7日(木)	日野町	地区担当者 1人 支部職員 2人
	竜王町	地区担当者 1人 支部職員 2人
9月28日(木)	守山市	地区担当者 1人 支部職員 2人
	草津市	地区担当者 2人 支部職員 2人

(3) 職員研修会の開催

名称	開催日	会場	対象および出席者数	研修内容
令和5年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第1回)	10月17日 (火)	ピアザ淡海 (滋賀県立 県民交流セ ンター)	支部・施設の勤続10年 を迎える職員 37人 講師 2人 事務局 3人	1 第一線で働く中堅職員に求められる立場と役割を再確認する。 2 役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を身につける。 3 マンネリを打破し、組織へ積極的に働きかけをしていく意識を向上させる。
令和5年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第2回)	10月24日 (火)		支部・施設の勤続10年 を迎える職員 38人 講師 2人 事務局 3人	
令和5年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第3回)	11月28日 (火)		支部・施設の勤続10年 を迎える職員 40人 講師 2人 事務局 3人	

5 会員増強運動の推進と実績

(1) 会員増強運動の推進

5月を「赤十字会員増強運動月間」として、ひとりでも多くの方々に赤十字の思想・活動を理解していただくとともに、赤十字会員への加入や活動資金の拡充強化に努めました。

本年度会員増強運動に使用した資料は次のとおりです。

ア 赤十字会員増強運動実施要項	150部
イ 小冊子（リーフレット）	8,100部
ウ ポスター	2,780部
エ 赤十字活動チラシ	500,000部
オ 赤十字会員募集のてびき	3,000部
カ 広報用DVD	25部
キ 活動資金領収書	152,000部
ク 法人に対する活動資金協力依頼状	18,300部
ケ 個人情報の取扱いに関する啓発パンフレット	1,000部
コ 法人向けチラシ①	7,000部
サ 法人向けチラシ②	7,500部
シ 法人向けチラシ③	300部

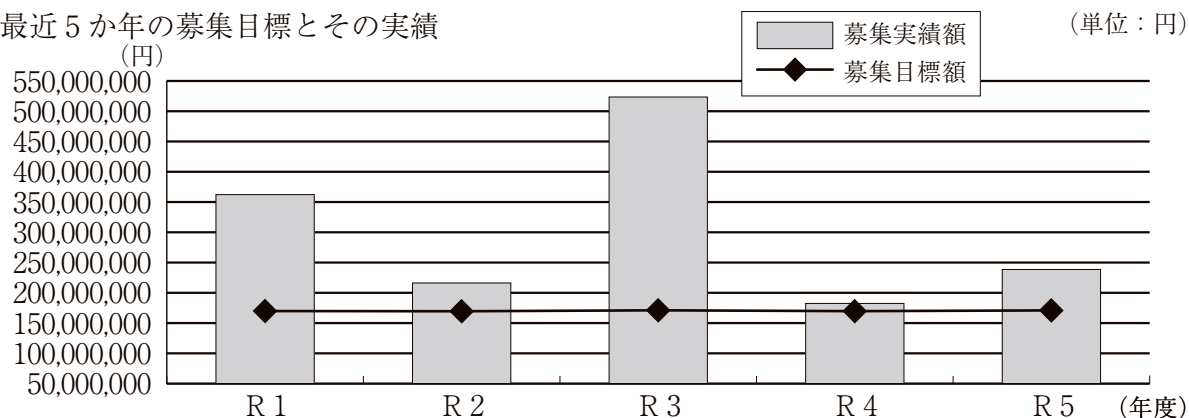
(2) 令和5年度活動資金募集実績

各市町の標準世帯数の40%以上を「500円会員」、28%以上を「1,000円会員」として募集することを目標とし、県民の皆様には支援と協力を依頼したところ、地区分区の協力もあり、別表のような実績を上げました。

令和5年度活動資金募集実績

地区区分名		募集目標額 (A) (円)	地区区分・ 支部収納額 (B) (円)	支部による募集実績額内訳				収納額合計 G=B+C+D+E+F (円)	達成率 G/A (%)		
				赤十字しが (C) (円)	個人DM (D) (円)	口座振替 (E) (円)	クレジットカード (F) (円)				
地 区 分 区	市 地 区	大 津 市	33,888,000	10,700,778	1,085,000	6,420,995	998,000	2,649,504	21,854,277	64.5%	
		彦 根 市	10,577,000	5,077,758	64,000	2,624,000	212,000	431,100	8,408,858	79.5%	
		長 浜 市	14,547,000	7,471,973	120,000	1,480,670	226,000	150,000	9,448,643	65.0%	
		近江八幡市	10,042,000	5,581,432	148,000	487,000	236,000	381,000	6,833,432	68.0%	
		草 津 市	6,691,000	4,437,111	207,000	580,971	438,000	780,400	6,443,482	96.3%	
		守 山 市	8,707,000	6,973,599	249,000	803,000	36,000	119,000	8,180,599	94.0%	
		栗 東 市	6,799,000	3,421,497	0	1,202,000	118,000	786,005	5,527,502	81.3%	
		甲 賀 市	11,617,500	8,825,857	33,000	590,000	52,000	82,000	9,582,857	82.5%	
		野 洲 市	5,840,500	3,154,303	63,000	400,000	70,000	552,000	4,239,303	72.6%	
		湖 南 市	5,959,000	3,211,577	8,000	332,800	51,000	108,000	3,711,377	62.3%	
		高 島 市	6,046,500	4,178,841	6,000	294,639	14,000	58,000	4,551,480	75.3%	
		東 近 江 市	13,966,500	13,453,986	52,000	530,000	98,000	115,300	14,249,286	102.0%	
		米 原 市	5,511,000	5,574,000	20,800	454,450	58,000	247,000	6,354,250	115.3%	
		市 地 区 計		140,192,000	82,062,712	2,055,800	16,200,525	2,607,000	6,459,309	109,385,346	78.0%
地 区 分 区	郡 地 区	東 日 野 町	2,712,000	2,356,001	0	143,000	0	9,777	2,508,778	92.5%	
		近 竜 王 町	1,656,000	926,000	10,000	30,000	0	0	966,000	58.3%	
		東近江計		4,368,000	3,282,001	10,000	173,000	0	9,777	3,474,778	79.6%
		愛 荘 町	2,489,000	2,136,440	10,000	61,000	31,000	24,000	2,262,440	90.9%	
		湖 豊 郷 町	951,500	945,981	30,000	134,221	48,000	0	1,158,202	121.7%	
		甲 良 町	975,500	896,500	0	11,000	0	0	907,500	93.0%	
		東 多 賀 町	1,164,000	1,124,930	0	13,000	0	0	1,137,930	97.8%	
		湖 東 計		5,580,000	5,103,851	40,000	219,221	79,000	24,000	5,466,072	98.0%
		郡 地 区 計		9,948,000	8,385,852	50,000	392,221	79,000	33,777	8,940,850	89.9%
		地 区 分 区 計		150,140,000	90,448,564	2,105,800	16,592,746	2,686,000	6,493,086	118,326,196	78.8%
支 部		20,913,000	120,035,948	66,000	99,500	0	11,000	120,212,448	574.8%		
支 部 ・ 地 区 分 区 計		171,053,000	210,484,512	2,171,800	16,692,246	2,686,000	6,504,086	238,538,644	139.5%		
個人住民税寄付金 控除対象救援金		-	992,027	-	-	-	-	992,027	-		
病院 使 途 指 定 寄 付 金		0	11,550,000	-	-	-	-	11,550,000	-		
合 計		171,053,000	223,026,539	2,171,800	16,692,246	2,686,000	6,504,086	251,080,671	146.8%		

最近5か年の募集目標とその実績



(単位：円)

凡 例	年 度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
◆	募 集 目 標 額	169,988,000	169,634,000	171,204,000	169,805,000	171,053,000
	(うち口座振替目標額)	(2,654,000)	(2,637,000)	(2,593,000)	(2,628,000)	(2,655,000)
	(うちクレジット目標額)	(1,920,284)	(997,000)	(2,611,000)	(1,177,000)	(2,398,000)
■	募 集 実 績 額	362,227,461	216,238,531	523,520,133	182,432,147	238,538,644

(上記募集実績額は個人住民税寄付金控除対象救援金及び管内赤十字病院等への用途指定寄付金を除く)

(3) 活動資金募集にかかる主な取り組みと実績

ア 個人向けダイレクトメールによる活動資金募集実績

過去に支部へ活動資金の協力があった個人をはじめ、本社から提供のあった義援金・救援金・海外たすけあい協力者を対象にダイレクトメールによる活動資金の募集を行いました。

	送付件数	応 諾 数	応 諾 率	協力金額
11月発送	7,570件	848件	11.2%	16,692,246円

イ 法人活動資金募集の実績

① 法人活動資金の実績

	予 算 額	実 績 額
指定寄付金	6,330,000円	6,330,000円
損金算入限度額特例扱寄付金	9,670,000円	37,075,727円
合 計	16,000,000円	43,405,727円

※指定寄付金として募集した額は、救護資機材等の整備費に充当しました。

② ダイレクトメール (DM) による募集

年3回(7月・11月・2月)発送のダイレクトメールにより、法人に対して活動資金の募集を行いました。

	発 送 数	応諾数	応諾率	協力金額
7月 発送分	7,522件	383件	5.1%	14,116,985円
11月 発送分	7,114件	140件	2.0%	3,299,474円
2月 発送分	275件	42件	15.3%	1,310,203円
合 計	14,911件	565件	3.8%	18,726,662円

【発送条件】

7月発送分：支部保有法人データ全件

帝国データバンクから購入した売上高5千万円以上の法人

11月発送分：7月にDMを発送した法人のうち、未応諾の法人

2月発送分：一昨年、昨年に協力いただいた法人のうち、未応諾の法人

③ 訪問による募集

支部職員、地区分区事務職員、奉仕団員が法人を訪問し、活動資金の募集を行いました。

	依頼件数	応諾数	応諾率	協力金額
17 地区分区	1,822件	1,382件	75.90%	7,435,343円

④ 法人会員向けステッカーの作成・配布

日本赤十字社に支援していただいた、法人会員に対して、ステッカーを作成し、活動資金として2,000円以上のご寄付をいただいた法人を対象に配付しました。

(4) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進

ア 募金箱による協力

設置数 22か所

金額 65,084円

イ 寄付金つき自動販売機による協力

設置数 24か所

金額 1,751,201円

ウ 赤十字支援マークの使用

4法人

エ 経済団体と連携した活動

9月18日、滋賀県中小企業団体中央会、滋賀県中小企業青年中央会が主催する、お仕事体験・学習イベント「しがわーくフェスタ2023」へブースを出展し、AED体験コーナー、無線体験、防災グッズの展示等を行いました。

オ 遺贈・相続財産寄付の受け入れ体制の構築

1月31日、滋賀県内に14の支店を置く株式会社京都銀行と、遺言を活用した遺贈寄付に関する協定を締結し、京都銀行と連携して、遺贈を希望される方の思いをスムーズに実現できる体制を構築しました。

(5) 赤十字会員数

会員数（年額2,000円以上協力者）

	会員数	増減（前年度比）
個人（人）	4,659	-108
法人（法人）	2,088	- 36
合計（人・法人）	6,747	-144

令和6年3月31日現在

(6) 有功章等受章件数

	個人	法人	合計
紺 綬 褒 章	3	0	3
厚生労働大臣感謝状	6	1	7
社長感謝状	15	7	22
金色有功章	9	3	12
銀色有功章	6	14	20
支部長表彰状	11	9	20
特別社員章	175	-	175

令和6年3月31日現在

6 災害救護活動

日本赤十字社は、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられるとともに、災害救助法により国及び都道府県に対する救助への協力義務が規定されています。

滋賀県支部は、滋賀県と「災害救助法による救助等に関する委託契約書」を締結しており、避難所での生活環境の整備及び被災者に対するこころのケア、医療、助産及び死体の処理に関する事項を実施することとなっています。

令和5年度は、令和6年1月1日に発生した能登半島地震に対し、赤十字医療施設の救護班等を派遣し、巡回診療、避難所アセスメント及びこころのケアの活動を行いました。

(1) 能登半島地震における救護班等の派遣状況

派遣期間	施設名	種 別	人数
1月2日～1月6日	長浜赤十字病院	救護班	9人
1月5日～1月10日	大津赤十字病院	救護班	10人
1月10日～1月14日	長浜赤十字病院	救護班	8人
1月14日～1月18日	大津赤十字病院	日赤災害医療コーディネーターチーム	3人
1月15日～1月19日	大津赤十字病院	救護班	9人
1月19日～1月27日	長浜赤十字病院	日赤災害医療コーディネーターチーム	4人
1月20日～1月24日	長浜赤十字病院	救護班	8人
1月21日～1月29日	長浜赤十字病院	こころのケア活動調整班	1人
1月23日～1月27日	大津赤十字病院 大津赤十字志賀病院	救護班	9人

1月30日～2月3日	長浜赤十字病院	救護班	9人
2月4日～2月8日	長浜赤十字病院	救護班	8人
2月4日～2月10日	大津赤十字病院	日赤災害医療コーディネートチーム	3人
2月10日～2月14日	大津赤十字病院	救護班	8人
2月12日～2月17日	大津赤十字病院	こころのケアチーム	4人
2月16日～2月22日	大津赤十字病院	日赤災害医療コーディネートチーム	3人
2月20日～2月24日	大津赤十字病院	救護班	8人
2月25日～2月29日	大津赤十字病院 大津赤十字志賀病院	救護班	9人
2月26日～3月3日	大津赤十字病院	こころのケア活動調整班	1人
3月7日～3月11日	滋賀県支部	石川県支部支援要員	1人
3月10日～3月17日	長浜赤十字病院	こころのケア活動調整班	1人
3月20日～3月25日	長浜赤十字病院	こころのケアチーム	4人

令和6年3月31日現在

(2) 災害救援物資及び弔慰金の配分状況

地震、火災、風水害などの自然災害、人為災害時に全壊、全焼、流出の世帯に対し、支部備蓄の救援物資の配布や死亡者に対して弔慰金を配分しています。

令和5年度は次のとおり救援物資及び弔慰金の配分を行いました。

ア 災害救援物資

物資名	数量	物資名	数量
毛布	39枚	大判タオル	41本
緊急セット	18個	タオル	20本

イ 弔慰金

5件：死者5人、配分額 50,000円

(3) 義援金、海外救援金の受付状況

義援金名	金額(円)	
	本年度分	累計
令和5年5月能登地方災害義援金	872,645	同左
令和5年台風第2号等大雨災害義援金	833,424	同左
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	384,061	同左
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	1,195,823	同左
令和5年台風第6号災害義援金	419,286	同左
令和5年台風第13号災害義援金	833,424	同左
令和6年能登半島地震災害義援金	150,015,520	同左
計	154,554,183	同左

救 援 金 名	金 額 (円)	
	本年度分	累 計
中東人道危機救援金	1,009	2,119
バングラディシュ南部避難民救援金	1,474	2,586
アフガニスタン人道危機救援金	19,703	487,871
ウクライナ人道危機救援金	3,524,983	22,204,587
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	335,406	同左
2023年モロッコ地震救援金	314,060	同左
2023年リビア洪水救援金	251,942	同左
2023年アフガニスタン地震救援金	252,338	同左
イスラエル・ガザ人道危機救援金	413,280	413,404
2023年トルコ・シリア地震救援金	2,551,092	12,912,938
計	7,665,287	37,177,251

令和6年3月31日現在

(4) 救護資機材の整備

災害対応能力強化のための資機材として、県内医療施設に非常食、非常用トイレ、ポータブル電源、ポータブルスプラッシュシールド等を整備しました。

また、災害救護対応に要した医薬品にかかる費用の助成を行いました。

(5) 訓練及び研修

ア 滋賀県総合防災訓練

10月15日に、大津市生涯学習センターを主会場に実施されました。滋賀県支部では、現地救護所設置運営訓練、災害ボランティアセンター非常態勢移行・機動運営訓練、災害ボランティアセンター（サテライト）の開設・運営訓練、災害時炊き出し訓練などの訓練を実施しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員）17人

（滋賀県支部2人、大津赤十字病院8人、長浜赤十字病院7人）

防災支援赤十字奉仕団員11人

イ 日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練

6月17日、日本赤十字社兵庫県支部災害救護支援センター（兵庫県三木市）を主会場に大規模災害が発生した際、近畿2府4県の赤十字支部・施設が連携し、救護活動が展開できるよう各種救護訓練等を実施しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員）43人

（滋賀県支部3人、大津赤十字病院14人、大津赤十字志賀病院8人、長浜赤十字病院18人）

大津赤十字看護専門学校学生24人

防災支援赤十字奉仕団員11人

ウ 東近江市総合防災訓練

9月3日、東近江市立能登川中学校グラウンドにおいて実施されました。滋賀県支部では現地救護所設置運営訓練、避難所巡回診療訓練、こころのケア講座、災害ボランティアセンター設置運営訓練、災害時炊き出し訓練を実施しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員）11人
（滋賀県支部2人、大津赤十字病院9人）
防災支援赤十字奉仕団員3人

エ 救護員としての赤十字看護師研修（合同災害救護演習）

11月7日、長浜赤十字病院において災害時の救護活動に必要なトリアージ等の技術の習得や、組織における自己の役割の認識、指示・命令系統の理解等を目的に合同災害演習を実施しました。

【参加者数】

看護師48人
（大津赤十字病院24人、大津赤十字志賀病院3人、長浜赤十字病院21人）
その他職員12人
（大津赤十字病院4人、大津赤十字志賀病院1人、長浜赤十字病院5人、滋賀県支部2人）

オ 日本赤十字社本社主催の災害救護関係研修会への参加

災害医療コーディネーター研修は、7月8日・9日及び9月23日・24日、日本赤十字社本社において、災害医療のコーディネーションの知識習得やコーディネーター活動の考え方の共通認識を図る目的で実施されました。

【参加者数】

研修参加者 3人（大津赤十字病院2人、長浜赤十字病院1人）
指導スタッフ 3人（大津赤十字病院1人、長浜赤十字病院2人）

カ こころのケア研修及びこころのケア指導者養成研修

① こころのケア研修

被災者及び救援者である救護員へのこころのケアの重要性について理解を深めるとともに、救護員自身のこころのケアに関する対処方法の取得を目的に実施しました。

	大津赤十字病院	長浜赤十字病院
実施日	7月13日、18日	8月19日
修了者人数	31人	30人
指導スタッフ	5人	9人

② こころのケア指導者養成研修（10月11日～12日）

災害時におけるこころのケア活動は、救護活動における重要な柱のひとつです。本社ではその要員を養成する「こころのケア指導者養成研修」が実施され、令和5年度は、大津赤十字志賀病院から1人が参加しました。

(6) 救護員の登録状況

常備救護班は医師を班長として1人、看護師長1人、看護師2人、主事1人、自動車操作要員1人の計6人をもって1班とし、大津赤十字病院に4個班、大津赤十字志賀病院に1個班、長浜赤十字病院に3個班を常備編成しています。

(7) 救護資材整備状況及び救援物資備蓄状況

ア 救護資機材整備状況

品名	保有数	品名	保有数
災害救援車	2	業務用無線基地局	2
救護所用大型テント	2	車載型業務用無線機	15
救護所用テント空調装置	2	携帯型業務用無線機	25
天幕(3.6m×5.4m)	6	衛星携帯電話	3
エアータント(大・小)	2	病院前除染設備一式	2
ワンタッチテント	7	医療セット一式	8
担架	24	移動式炊飯器	2
担架架台	5	救護員用雨具	60
折り畳み寝台	31	救護員用防寒具	60
発電機	4	救護員用寝袋	18

イ 災害救援物資の備蓄状況

品名	保有数	品名	保有数
毛布	9,452	大判タオル	563
緊急セット	1,083	タオル	388
安眠セット	365	タオルケット	1,189

7 赤十字救急法・健康生活支援講習等の講習普及

(1) 救急法

日常生活などで不慮の事故にあった際、医師などに引き継ぐまでの応急手当や救命手当を赤十字奉仕団、学校、企業等を対象に実施しました。

区分	実施回数(回)	受講人数(人)
一般普及講習(基礎講習)	24	444
一般普及講習(救急員養成)	16	313
短期講習	148	3,788

(2) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすための健康維持・増進の思想と、高齢者の自立をめざした介護予防の方法を指導するもので、赤十字奉仕団、一般住民を対象に行いました。

区 分	実施回数 (回)	受講人数 (人)
一般普及講習 (支援員養成)	3	84
短期講習	14	1,048

(3) 幼児安全法

子どもを社会の財産として大切に育てるため、子どもに起こりやすい事故に対する応急手当の方法と事故防止、子どもの病気と看病のしかたを中心として子育て支援関係者、保育園・幼稚園の職員、福祉施設の職員等を対象に行いました。

区 分	実施回数 (回)	受講人数 (人)
一般普及講習 (支援員養成)	3	70
短期講習	27	424

(4) 水上安全法

安全に水と親しむための、事故防止や泳ぎの基本と自己保全、水の事故に遭った際の救助や手当の方法などの知識と技術を習得するもので、学校関係職員を対象に実施しました。

区 分	実施回数 (回)	受講人数 (人)
一般普及講習 (救助員Ⅰ養成)	1	7
一般普及講習 (救助員Ⅱ養成)	1	3
短期講習	13	367

(5) 指導員の養成

2月4、5、10、11、12日の5日間、赤十字救急法指導員養成講習を皇子が丘公園体育館大会議室で開催し、新たに14人の指導員を養成しました。

(6) 講習指導員の研修

滋賀県支部に所属する救急法、水上安全法、幼児安全法、健康生活支援講習の各指導員に対し技能維持を目的とした指導員研修を実施しました。

対 象 指 導 員	実施回数 (回)	受講人数 (人)
救 急 法・水 上 安 全 法	1	48
幼 児 安 全 法・健 康 生 活 支 援 講 習	1	55

(7) 各種講習指導員数

講習種別	ボランティア (人)	県内赤十字施設職員 (人)	総 数 (人)
救 急 法	99	57	156
水 上 安 全 法	21	1	22
健康生活支援講習	14	20	34
幼 児 安 全 法	20	25	45

(8) 防災教育の普及

近年の防災・減災に対する関心の高まりをうけ、地震や風水害などの自然災害に対しての正しい知識や災害時の備えなどを学ぶ防災教育を、学校、地域、赤十字奉仕団等に対して実施しました。

対 象	実施回数 (回)	受講者数 (人)
自 治 会 等	7	373
赤 十 字 奉 仕 団	14	868
学 校 関 係	9	348
企 業	6	170
そ の 他	1	300
合 計	37	2,059

(9) 滋賀県安全法指導員協議会

救急法・水上安全法の指導員資格を有する者をもって会員とし、講習普及や人命尊重と苦痛の軽減に寄与することを目的に結成され、支部の講習計画に基づき、県内での講習普及に努めています。

会員数は、救急法156人、水上安全法22人の計178人（重複者 8 人）

名 称	期日等	出席者 (人)	内 容
第 1 回役員会	4 月 28 日	7	【報告事項】 1 令和 4 年度事業報告並びに収支決算について 【協議事項】 1 令和 5 年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について 2 役員改選について
定 期 総 会	6 月 3 日	45	1 令和 4 年度事業報告並びに収支決算 2 令和 5 年度事業計画（案）並びに収支予算（案） 3 役員改選
第 2 回役員会	12月21日	9	【報告事項】 1 令和 5 年度事業実施状況について 【協議事項】 1 令和 6 年度事業計画（案）について

8 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、市町の地域毎につくられる地域奉仕団と社会人や学生などによって組織された青年奉仕団、また特殊技能者が集まった特殊奉仕団があります。

赤十字奉仕団は、赤十字思想の普及や災害救護など、赤十字事業の推進にあたりとともに、地域の状況に応じた福祉活動など幅広い活動を展開しています。

(1) 設団状況

ア 地域奉仕団

地域別	団数 (団)	分団または班数 (団または班)	団員数 (人)		
			男	女	計
市	43	558	938	10,092	11,030
町	7	69	127	1,212	1,339
計	50	627	1,065	11,304	12,369

イ 青年奉仕団

名 称	団員数 (人)		
	男	女	計
滋賀県青年赤十字奉仕団はなまる	3	3	6
大津赤十字看護専門学校学生奉仕団めだか	9	78	87
計	12	81	93

ウ 特殊奉仕団

名 称	団員数 (人)		
	男	女	計
滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団	49	16	65
滋賀県防災支援赤十字奉仕団	37	16	53
計	86	32	118

(2) 地域赤十字奉仕団の活動

ア 赤十字奉仕団滋賀県支部委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
8月10日	県支部委員15人 指導講師 4人	滋賀県支部 会議室	1 令和6年度の赤十字奉仕団員研修旅行について 2 令和5年度赤十字奉仕団男性団員交流研修会について
11月9日	県支部委員16人 指導講師 4人	滋賀県支部 会議室	1 令和6年度の赤十字奉仕団員研修旅行について 2 令和5年度赤十字奉仕団男性団員交流研修会の振り返り
1月18日	県支部委員14人 指導講師 5人	滋賀県支部 会議室	1 令和5年度事業の実施状況について 2 令和6年度事業計画(案)について 3 報告事項 ・米原市近江赤十字奉仕団について

イ 赤十字奉仕団滋賀県支部常任委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
6月8日	常任委員7人 指導講師4人	滋賀県支部 会議室	1 令和5年度赤十字奉仕団委員長会議・研修 会の振り返り 2 報告事項 ・ハートラちゃんカフェについて ・インスタグラム教室について ・令和5年度赤十字奉仕団中央委員会の報告
7月27日	常任委員6人 指導講師3人	滋賀県支部 会議室	1 令和6年度の赤十字奉仕団員研修旅行につ いて 2 令和5年度赤十字奉仕団男性団員研修会に ついて
12月14日	常任委員6人 指導講師5人	滋賀県支部 会議室	1 令和5年度事業の実施状況について 2 令和6年度事業計画（案）について 3 報告事項 ・米原市近江赤十字奉仕団について
3月12日	常任委員8人 指導講師4人	滋賀県支部 会議室	1 令和6年度基本目標について 2 令和6年度赤十字奉仕団委員長会議・研修 会について 3 赤十字奉仕団斡旋物資について 4 報告事項 ・赤十字奉仕団員研修旅行について ・委員長研修旅行助成金について

ウ 赤十字奉仕団委員長会議・研修会

開催日	参加者数	会 場	内 容
4月25日 ・26日	奉仕団委員長 47人 指導講師5人	コラボしが21	1 赤十字と奉仕の心 2 奉仕団と青少年赤十字 3 魅力ある奉仕活動の展開を目指して～事例 発表から学ぶ～ ・事例発表（米原市地区・彦根市・竜王町） ・講評 4 グループワーク テーマ：「重点目標を踏まえた奉仕団活動を 進めるために」 5 グループワーク発表 6 災害と赤十字奉仕団 7 元気に奉仕団活動をするために 8 重点目標事業活動報告 (1) 野洲市中主赤十字奉仕団 (2) 栗東市赤十字奉仕団 (3) 東近江市能登川赤十字奉仕団 9 「赤十字この一年」DVD鑑賞 10 委員長経験に関するアンケート結果報告 ～「つながる」ことがやりがいになる～ 11 日本赤十字社の組織と活動資金について・ 奉仕団事務取扱について

エ 赤十字奉仕団男性団員研修会

開催日	参加者数	会 場	内 容
10月3日	男性団員42人 常任委員8人 指導講師5人	コラボしが21	1 赤十字と奉仕団活動 2 日本赤十字社の組織と活動資金の募集について 3 DVD視聴「赤十字この一年」 4 活動発表 (1) 大津市赤十字奉仕団 (2) 東近江市能登川赤十字奉仕団 (3) 東近江市蒲生赤十字奉仕団 5 災害と赤十字奉仕団 6 グループワーク テーマ：「災害から地域を守るために私たちが ができること」 7 グループワーク発表

オ 赤十字奉仕団中央委員会

開催日	参加者数	会 場	内 容
6月1日 ・2日	県支部委員長	日本赤十字社 本社	1 中央委員会常任委員の改選について 2 各ブロック赤十字奉仕団委員長会議等の報告 3 令和5年度日本赤十字社事業計画及び第二次中期事業計画について 4 講義「日本赤十字社の防災教材について（「家具安全対策ゲーム（KAG）」体験を含む） 5 活動事例の紹介（①防災・減災②地域包括ケア③課題への取組み） 6 分科会（テーマ「赤十字奉仕団の役割と活動を考える」～超少子高齢社会で赤十字奉仕団等ボランティアが果たす役割、活動の可能性とは～）

カ 赤十字奉仕団中央委員会常任委員会

開催日	出席者	会 場	内 容
12月1日	県支部委員長	日本赤十字社 本社	1 令和6年度赤十字奉仕団中央委員会 日程案 2 同委員会テーマについて

キ 赤十字奉仕団一日研修会

奉仕団員の意識を高揚し、真の奉仕者組織としての健全な奉仕団の育成を期するため、15郡市地区が、それぞれの主催で一日研修会を開催し、団活動についての講演、DVD上映、事例発表等を行いました。

地区別	開催日	人数（人）	地区別	開催日	人数（人）
大津市	10月19日	128	彦根市	11月23日	65
長浜市	11月17日	270	近江八幡市	11月18日	250
草津市	12月6日	88	守山市	10月18日	167
栗東市	10月24日	43	甲賀市	9月12日	134
野洲市	10月29日	58	湖南市	11月13日	37
高島市	6月30日	101	東近江市	10月18日	228
米原市	10月25日	139	東近江	11月16日	79
湖東	11月10日	102			

ク 赤十字奉仕団広報紙の発行

発行日	発行号	発行部数（部）
11月1日	第66号	17,000
3月15日	第67号	16,900

ケ 重点目標事業の推進

赤十字奉仕団重点目標に関連した奉仕団活動の活性化を図るため、3団を対象奉仕団として指定し、助成を行いました。

実施期間	奉仕団名	令和4年度交付額（円）
令和4年4月1日～令和6年3月31日	栗東市	25,000
	野洲市中主	25,000
	東近江市能登川	25,000
合計		75,000

コ ハートラちゃんカフェ（委員長・副委員長交流会）

委員長及び副委員長同士の交流の場を提供し、研修会という枠にとわられない自由な形式で奉仕団が抱える課題について話し合うことにより、より良い団の運営につながる方策を見出すこと、また、県内の様々な地域同士が情報交換を行うことにより、新たな気づきを与え合い、奉仕団活動の活性化につなげることを目的として実施しました。

開催日	参加者数	会 場	参加奉仕団 (オブザーバーとして県支部委員長、指導講師2人が参加)
6月23日	10人	滋賀県支部 会議室	長浜市浅井、甲賀市土山町、高島市マキノ 竜王町、甲良町
7月6日	9人	滋賀県支部 会議室	長浜市余呉、甲賀市水口町、東近江市蒲生 米原市近江、豊郷町
7月12日	10人	滋賀県支部 会議室	大津市志賀、栗東市、野洲市中主 高島市新旭、東近江市能登川
9月6日	10人	滋賀県支部 会議室	彦根市、長浜市長浜、守山市 湖南市甲西、高島市安曇川
9月13日	7人	滋賀県支部 会議室	長浜市木之本、近江八幡市安土、草津市 米原市伊吹

サ インスタグラム教室

奉仕団の存在や活動の「見える化」を図るため、各団での活動をタイムリーに発信してもらうことを目的として、情報発信ツール「インスタグラム」の教室を開催しました。

開催日	参加者数	会場
8月24日	地域奉仕団員 8人 青年奉仕団員 1人（サポーター）	滋賀県支部会議室
8月25日	地域奉仕団員 7人 青年奉仕団員 1人（サポーター）	滋賀県支部会議室

シ 赤十字奉仕団指導講師連絡会議

開催日	出席者	会 場	内 容
11月22日	指導講師 5人 県支部委員長	滋賀県支部 会議室	1 これからの指導講師のあり方について

ス 地域赤十字奉仕団特設サイトの運用

奉仕団への入団促進と団活動の活性化を目的に運用している「地域赤十字奉仕団特設サイト」において、各団及び各地区における特色ある取り組みを紹介する記事などを合計28回掲載しました。

セ これからの赤十字奉仕団等ボランティア検討委員会

人口減少、地域コミュニティの衰退等の社会環境の変化を踏まえ、災害時や平時の地域の課題解決に資するボランティア活動の拡充を図るため、赤十字奉仕団等ボランティアの維持増強並びに活動を活性化するための実践的な活動等の方向性を検討する「これからの赤十字奉仕団等ボランティア検討委員会」が設置され、職員1人が出席しました。

開催日	会場	内容
(第1回) 11月20日	日本赤十字社 本社	1 これからの赤十字奉仕団等ボランティア検討委員会について 2 地域社会を取り巻く環境の変化とボランティアの課題について 3 社会福祉協議会におけるボランティア・市民活動の推進について
(第2回) 12月11日	日本赤十字社 本社	1 第1回検討委員会の振り返りについて 2 赤十字奉仕団等ボランティアの現状とその意識に関する全国調査報告について 3 赤十字奉仕団等ボランティアにかかる調査報告（支部対象）について 4 調査結果等を踏まえた課題等について
(第3回) 1月12日	Web形式	1 赤十字奉仕団の活性化にかかる方向性について 2 赤十字奉仕団の維持・増強について 3 赤十字奉仕団活動の活性化について
(第4回) 1月22日	Web形式	1 赤十字奉仕団の活性化にかかる方向性について 2 赤十字奉仕団の維持・増強について 3 赤十字奉仕団活動の活性化について 4 提言にかかる協議
(第5回) 2月9日	日本赤十字社 本社	1 赤十字奉仕団の活性化にかかる方向性への提言（案）について 2 各項目についての協議

(3) 青年赤十字奉仕団の活動

事業名	開催日	参加人員 (人)	場所
第1回滋賀県赤十字奉仕団研修会	4月23日	3	滋賀県支部
令和5年度青年赤十字奉仕団全国協議会 (Web会議)	5月13日	2	参加者自宅
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 代表者会議	6月11日	2	京都府支部
第1回連絡協議会	7月16日	4	滋賀県支部
第2回滋賀県赤十字奉仕団研修会	7月23日	3	滋賀県支部
第3回滋賀県赤十字奉仕団研修会	11月3日	3	滋賀県支部
第4ブロック青年赤十字奉仕団 リーダー養成研修会	11月25日 11月26日	1	京都府立ゼミナールハウス (あうる京北)
第2回連絡協議会	10月29日	6	滋賀県支部
海外たすけあい街頭募金活動	12月10日	12	JR草津駅
令和5年度青年赤十字奉仕団全国協議会 (第2回)(Web会議)	2月23日	2	参加者自宅/本社
第3回連絡協議会	3月19日	4	滋賀県支部

(4) 滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動

防災学習の指導、研修会への参加など活動を展開しました。主な活動は下表のとおりです。

事業名及び参加行事	開催日	参加人員 (人)	場所
赤十字無線救護奉仕団第4ブロック連絡協議会役員会議	4月8日	1	日本赤十字社大阪府支部
定期総会	4月23日	13	日本赤十字社滋賀県支部
第1回奉仕団研修会	4月23日	18	日本赤十字社滋賀県支部
地域赤十字奉仕団委員長防災学習	4月26日	1	コラボしが21
防災教育事業主任指導者研修	4月28日	1	WEB
青少年赤十字連絡協議会防災学習	6月1日	4	滋賀県危機管理センター
第4ブロック合同災害救護訓練	6月17日	11	兵庫県広域防災センター
東近江市立五個荘中学校防災学習	6月28日	6	東近江市立五個荘中学校
滋賀県立八幡高等学校防災学習	7月6日	1	滋賀県立八幡高等学校
防災教育事業指導者フォローアップ研修	7月13日 ～14日	3	日本赤十字社大阪府支部
びわこ学院大学防災学習	7月20日	7	びわこ学院大学
第2回奉仕団研修会	7月23日	22	日本赤十字社滋賀県支部
東近江市八日市赤十字奉仕団防災学習	7月29日	5	東近江市福祉センターハートピア
東近江市永源寺赤十字奉仕団防災学習	8月5日	4	永源寺コミュニティセンター もみじホール

滋賀県高等学校等教育研究会家庭科教育研究部会防災学習	8月17日	3	キラリエ草津会議室
甲良町分区防災学習	8月24日	6	甲良町社会福祉協議会
草津市赤十字奉仕団南笠東分団防災学習	8月26日	4	南笠東まちづくりセンター
赤十字ボランティアリーダー研修会	8月26日 ～28日	1	国立オリンピック記念青少年総合センター
甲良西こども園・東こども園防災学習	9月1日	3	甲良西こども園・東こども園遊戯室
赤十字防災ボランティアリーダー養成研修会	9月2日 ～3日	1	WEB
東近江市総合防災訓練	9月3日	3	東近江市市立能登川中学校
滋賀県立東大津高等学校防災学習	9月5日	6	滋賀県立東大津高等学校被服室
JAレークしが防災学習	9月11日	2	山田支店 2階 会議室
JAレークしが防災学習	9月12日	3	栗東地区統括本部 3階 会議室
JAレークしが防災学習	9月14日	2	明富支店 会議室
JAレークしが防災学習	9月15日	2	堅田中央支店 2階 会議室
しがワークフェスタ2023	9月18日	10	草津市YMITアリーナ
永源寺赤十字奉仕団防災学習	9月24日	6	永源寺運動公園
草津市立橋岡会館防災学習	9月29日	3	草津市立橋岡会館
近江八幡市社会福祉協議会防災学習	9月30日	1	アクティ近江八幡
地域赤十字奉仕団男性団員防災学習	10月3日	1	コラボしが21
大津市社会福祉協議会防災学習	10月4日	7	大津市膳所市民センター
甲賀市甲賀町赤十字奉仕団防災学習	10月6日	3	消防団甲賀方面隊拠点施設
近江八幡市赤十字奉仕団八幡分団防災学習	10月13日	1	八幡コミュニティセンター
滋賀県総合防災訓練	10月15日	10	大津市膳所市民センター
北里学区まちづくり協議会防災学習	10月22日	5	近江八幡市立北里小学校体育館
栗東市地区防災学習	10月24日	5	JA栗東 桃李館
青少年赤十字高校生連絡協議会防災学習	10月26日	3	危機管理センター
野洲市地区防災学習	10月29日	3	野洲市コミュニティセンターひょうず
第3回奉仕団研修会	11月3日	24	日本赤十字社滋賀県支部
赤十字バスツアー防災学習	11月6日	1	日本赤十字社滋賀県支部
びわこ学院大学防災学習	11月7日	3	びわこ学院大学
守山市社会福祉協議会防災学習	11月11日	1	すこやかセンター 3階講習室
湖南市赤十字奉仕団防災学習	11月13日	3	石部まちづくりセンター 2階多目的室
赤十字バスツアー防災学習	11月13日	1	日本赤十字社滋賀県支部
近江八幡市赤十字奉仕団防災学習	11月18日	1	滋賀県立男女共同参画センターG-NETしが
守山市赤十字奉仕団速野分団防災学習	12月19日	3	速野会館
愛荘町矢守自治会防災学習	2月11日	2	矢守草の根ハウス

※上記のほか、滋賀県防災支援奉仕団の役員会をWEB会議で11回開催。

(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動

ア 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団役員会

開催日	参加者数	会 場	内 容
6月16日	4人	日赤滋賀県支部 会議室	【報告事項】 令和4年度事業報告並びに収支決算について 令和4年度青少年赤十字加盟状況について 【協議事項】 令和5年度事業計画（案）並びに収支予算（案） について 役員改選について 全国協議会会報について その他

イ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団総会

開催日	参加者数	会 場	内 容
6月28日	9人	守山駅前 コミュニティーホール	【協議事項】 令和4年度事業報告並びに収支決算報告 令和5年度事業計画（案）並びに収支予算（案） 役員改選 その他 【報告事項】 滋賀県青少年赤十字指導者協議会関係の報告

ウ その他の会議、行事参加

開催日	出席者数	会 場	事 業
7月18日	2人	日赤滋賀県支部 会議室	滋賀県青少年赤十字指導者協議会正副会長との 意見交換
8月4日	2人	守山市立 守山小学校	滋賀県青少年赤十字リーダーシップトレーニング・ センターへの出席
10月12日 ・13日	2人	堺市内 (大阪府支部担当)	研修・交流会、見学
11月14日	3人	高島市立 本庄小学校	JRC研究推進委嘱校研究発表会への参加
3月12日	2人	日赤滋賀県支部 会議室	滋賀県青少年赤十字指導者協議会郡市部長会へ の出席

エ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団広報紙「JRC賛助奉仕団しが」の発行

開催日	号 数	部数(部)	内 容
3月10日	第38号	400	令和5年度滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団事業実施状況 滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会参加報告 近畿ブロック交流研修会参加報告など
3月31日	第39号	400	令和5年度滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団役員名簿、 県内加盟校の活動紹介など

オ 全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会会報「いとすぎ」第29号の発行

青少年赤十字賛助奉仕団の全国組織である「全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会」の会報誌『いとすぎ』の編集・発行を滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団が担当しました。発行部数は4,600部で、3月10日付けで日本赤十字社本社、各都道府県青少年赤十字賛助奉仕団委員長などに送付しました。

(6) 個人ボランティア

赤十字事業の推進を目的として、赤十字病院、血液センターなど県内の各赤十字施設に登録しているボランティアが活動しています。

施設名	人数・グループ	活動内容
大津赤十字病院	47人・6グループ	総合案内のお手伝いや図書の貸出し、衛生材料の整理など コンサート開催など
大津赤十字志賀病院	22人	音楽会、お話し相手、園芸など
長浜赤十字病院	52人	外来者の受付や案内、入浴介助など
滋賀県赤十字血液センター	79人	献血者への文書発送手伝い、献血者処遇品の準備など

9 青少年赤十字

青少年のうちから赤十字の精神を養うとともに、世界各国の青少年と手を結んで健康と安全の増進、国際親善などを行うことにより、青少年の健全育成を図るため、小・中・高等学校の児童、生徒を対象として学校内で組織されたものが青少年赤十字です。現在世界の赤十字加盟は191カ国ですが、多くの加盟国で青少年赤十字が取り入れられています。

(1) 加盟校の状況

区分	校種別	令和5年度	前年度比
園、学校数	幼稚園等	9	△1
	小学校	160	4
	中学校	45	3
	義務教育学校	2	0
	高等学校	14	△2
	特別支援	1	0
	総数	231	4
学級またはグループ数	幼稚園等	57	△6
	小学校	2,207	△16
	中学校	577	7
	義務教育学校	18	△3
	高等学校	138	△18
	特別支援	79	△2
	総数	3,076	△38

児童・生徒数 (人)	幼稚園等	1,224	△102
	小学校	51,457	△289
	中学校	17,402	122
	義務教育学校	335	△124
	高等学校	3,015	△1,307
	特別支援	369	△7
	総数	73,802	△1,707

(2) 青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催

開催日	会場	出席者数	協議事項
6月22日	安曇川公民館	9人	【報告事項】 1 令和4年度青少年赤十字事業報告について 【協議事項】 1 令和5年度青少年赤十字事業計画(案)について 2 役員改選(案)について
3月12日	滋賀県支部 会議室	7人	【報告事項】 1 令和5年度青少年赤十字事業報告について 【協議事項】 1 令和6年度青少年赤十字事業計画(案)について 2 その他 ・滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団並びに滋賀県青少年赤十字指導者協議会との連携について

(3) 本社及びブロック主催の講習会、研修会開催状況

区分	主催	開催日	開催場所	参加者
リーダーシップトレーニング・センター指導者養成講習会	日本赤十字社 本社	5月26日 ～28日	国立オリンピック 記念センター	県内参加者1人
青少年赤十字近畿ブロック指導者研修会	兵庫県支部	6月24日	日赤兵庫県支部	県内参加者3人
指導主事対象青少年赤十字研究会	日本赤十字社 本社	1月12日	日本赤十字社本社 会議室	指導スタッフ1人

(4) 支部主催のトレーニングセンター開催状況

区分	開催日	開催場所	参加者
メンバー・トレーニングセンター指導者事前打ち合わせ会	7月11日	守山市立守山小学校	会長、県指導員1人、守山市内指導者
第57回滋賀県青少年赤十字リーダーシップトレーニング・センター	8月4日	守山市立守山小学校	小学生38人、中学生16人、高校生8人、スタッフ等26人

(5) その他の会議・行事等

区 分	開催日	会 場	出席者数	備 考
指導部役員会	5月10日	滋賀県支部 会議室	6人	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度事業報告 令和5年度事業計画（案） リーダーシップ・トレーニングセンターについて
第1回滋賀県青少年 赤十字高校生連絡協 議会	6月1日	滋賀県危機 管理センター	高校生メンバー 22人 指導者等12人	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の活動紹介 役員選出 防災グッズについて
滋賀県青少年赤十字 第75回定期総会並び に研修会	6月22日	安曇川公民館	26人	<ul style="list-style-type: none"> 加盟校表彰 令和4年度事業報告 令和5年度事業計画（案） 役員改選 講演 「学校運営と青少年赤十字」 前滋賀県青少年赤十字指導 者協議会長 田中滋規氏
青少年赤十字全国指 導者協議会・総会	6月30日	日本赤十字社 本社	1人 (会長)	<ul style="list-style-type: none"> 役員改選 報告事項 グループディスカッション
第2回滋賀県青少年 赤十字高校生連絡協 議会	10月26日	滋賀県危機 管理センター	高校生メンバー 25人 指導者等12人	<ul style="list-style-type: none"> 各校の活動状況について HUG「避難所運営ゲーム」 について学ぶ
第46回青少年赤十字 研究推進委嘱校発表 会	11月14日	高島市立 本庄小学校	80人	
青少年赤十字国際交 流事業	11月23日 ～26日	国立 オリンピック 記念センター	1人	東アジアを中心とした海外メン バーと各都道府県高校メン バーの他代表者が交流を深め た
青少年赤十字スタ ディー・プログラム	3月22日 ～26日	山梨県東照館	2人	全国の高生メンバーが集まり、 グループディスカッションや フィールドワークを通じて交 流を図った。

(6) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業

青少年赤十字加盟校が行う自主的かつ意欲的な実践活動を支援し、その活動成果を広く普及することにより、青少年赤十字活動の一層の振興を図ることをねらいに、下記のとおり助成を行いました。

区 分	件 数 (件)	助 成 額 (円)
幼 稚 園	1	10,000
小 学 校	5	209,887
中 学 校	1	50,000
合 計	7	269,887

(7) 青少年赤十字機関紙「JRCしが」の発行

滋賀県内の青少年赤十字活動を広く周知するため、JRCしが[※] (No.29) を4月1日に発行し、県内の全小中高等学校等に配布して普及に努めました。

10 看護師の教育

赤十字看護師の教育は、明治29（1896）年からの長い歴史と伝統を誇る重要な事業の一つであり、災害救護業務の要員を確保するとともに、赤十字病院の要員充足を図り、併せて看護師不足に対応すべく優秀な看護師を社会に送り出すことを目的としています。

大津赤十字看護専門学校は大津市小関町に設置され、1学年養成定員を40人とし、本年度は下記のとおり養成しました。

令和5年度の養成人員				令和5年度迄の 養成人員
1年	2年	3年	計	
31人	23人	33人	87人	3,449人

11 国際活動

(1) 「NHK海外たすけあい」キャンペーンの実施

12月1日から25日の間、令和5年度「NHK海外たすけあい」キャンペーンを本社・支部・赤十字病院・血液センター、NHK各放送局、全国の郵便局、各金融機関等の協力を得て実施しました。

本キャンペーンの募金額は下記のとおりですが、この資金をもとに、日本赤十字社は世界各地の紛争や自然災害、病気で苦しむ人々に対して救援事業や開発協力事業を行いました。

実績内訳

区 分	件 数 (件)	金 額 (円)
滋賀県	支部・施設等窓口扱い分	1,094
	本社扱い	330
全 国	支部・施設等窓口扱い分	35,275
	本社扱い分	49,064
	合 計	84,339
		863,841,244

(2) 第4ブロック合同国際人道法普及研修への参加

2月22日、日本赤十字社第4ブロック合同による同研修がオンライン形式で開催され、県内各赤十字施設から7人（大津赤十字病院1人、大津赤十字志賀病院1人、長浜赤十字病院4人、滋賀県赤十字血液センター1人）が参加しました。

12 赤十字思想の普及

赤十字の理念や赤十字の活動について県民の理解を深め、一層の協力を得るため、5月の赤十字運動月間をはじめ、年間を通じて広報活動を展開しました。

(1) 本社作成の広報資材の配布

名 称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動紹介用リーフレット	赤十字活動のPRと会員募集 (8,100部)	地区・分区、各施設 活動資金協力者ほか
赤十字運動用PRポスター	赤十字活動のPRと会員募集 (2,780部)	地区・分区、各施設ほか
赤十字NEWS	日本赤十字社広報紙 (32,300部)	赤十字関係者
全国統一会員誌	会員への情報提供 (12,890部)	赤十字会員
活動紹介DVD	日本赤十字社活動紹介DVD 「赤十字この一年」	地区・分区、各施設

(2) 支部作成の広報資材の配布

名 称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動資金募集用チラシ	赤十字活動のPRと会員募集 (500,000部)	一般
活動資金募集用チラシ動画 (60秒)	SNS等での赤十字活動のPR	一般、各施設、地区・分区、 SNS等
支部広報誌「赤十字しが」	滋賀県支部の事業実施状況報告 (15,000部)	赤十字会員、奉仕団、地区・ 分区、各施設ほか
赤十字PRパネルB0版	赤十字活動のPRと会員募集	各施設
事業報告書	滋賀県支部の事業実施状況報告	支部役員・評議員、地区・分 区、各施設
ポケットティッシュ	赤十字活動PRと地域奉仕団員 募集 (40,000個)	地区・分区、奉仕団、各施設

(3) 主な広報活動

ア テレビスポットによる広報

びわ湖放送株式会社様のご協力を得て、以下のとおりテレビスポットによる広報を実施しました。

- ・期間 5月1日～31日（6月以降も放映）
- ・TV-CM 15秒/30秒

イ ラジオスポットによる広報

株式会社エフエム滋賀様のご協力を得て、以下のとおりラジオスポットによる広報を実施しました。

- 期間 5月1日～31日（6月以降も放送）
- ラジオCM 2タイプ/各20秒

ウ JR駅構内でのB2ポスターの掲出

- 期間 6月23日～30日

エ 京阪電車への遺贈広告の掲出

- 期間 2月1日～1月31日（年間）

オ 平和堂、近江鉄道等でのB2、B3ポスターの掲出

- 期間 5月1日～31日

カ 横断幕の掲出

- 場所 びわこ浜大津駅から明日都浜大津をつなぐ歩道橋
- 内容 「人間を救うのは、人間だ」（日本赤十字社スローガン）の掲出
- 期間 4月1日～5月31日

キ SNS（Instagram）を利用した広報活動

幅広い年代に赤十字の活動を身近に感じてもらえるよう、活動紹介や事業の発信を行いました。また、認知度の拡大、フォロワー数の増加を目的として、5月の赤十字運動月間と9月の防災月間において、ハッシュタグキャンペーンを実施しました。

ク 懸垂幕の掲出

- 場所 日本赤十字社滋賀県支部事務所ビル横
- 内容 「人間を救うのは、人間だ。— 赤十字活動資金に協力下さい。—」の掲出

ケ 支部ホームページの充実

不特定多数の方々にPRが図れる広報媒体であることから、当支部をはじめとする日本赤十字社の活動紹介、救急法等の健康・安全講習の案内、青少年赤十字活動の紹介など、赤十字活動の発信に努めました。

(4) 赤十字体験バスの実施

日本赤十字社滋賀県支部及び日本赤十字社滋賀県支部災害救護倉庫（滋賀県赤十字血液センター敷地内）を会場に地域で赤十字活動資金の募集等に携わっていただいている自治会役員等を対象に、赤十字活動の説明や施設見学、救急法等の講習体験等を通じて、赤十字の理念や活動に理解を深めていただくことを目的に開催しました。

対象	開催日	参加者数	内容
栗東市自治連合会	11月6日	12人	<ul style="list-style-type: none"> • 災害時の非常食（ハイゼックス）体験 • 日本赤十字社の活動 • 赤十字講習体験 • 支部災害救護倉庫見学 • 災害救護活動に関する説明 • 滋賀県赤十字血液センター見学 • 献血に関する説明
野洲市三上学区民生委員児童委員協議会	11月13日	12人	<ul style="list-style-type: none"> • 災害救護活動に関する説明 • 支部災害救護倉庫見学 • 災害時の非常食（ハイゼックス）体験 • 日本赤十字社の活動 • 赤十字講習体験

(5) 「ACTION！防災・減災」の実施

「ACTION！防災・減災」は、東日本大震災から10年が経つ令和3年3月11日を機に、改めて日本赤十字社から防災・減災のメッセージを打ち出し、「風化防止」や「復興支援」ととどまらず、未来に目を向けた「防災・減災への備え」を訴求し、防災意識を高める取り組みを引き続き実施しました。

ア 期間：令和6年3月1日～3月31日

イ キャンペーンの内容

① 寄付による支援

本キャンペーンの実施にあたり、以下の企業・団体からご寄付によるご支援をいただきました。

○ご支援いただいた企業・団体等

甲賀高分子株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、近江ユニキャリア販売株式会社、ビル管財株式会社、株式会社フジケン、三和産業株式会社、滋賀県立八幡高等学校、株式会社田中誠文堂、株式会社川嶋機械、草津電機株式会社、花文造園土木株式会社、三陽建材有限会社、有限会社天平フーズ、三協高圧株式会社、平和発條株式会社滋賀工場、関西ハム株式会社、株式会社藤田、有限会社宮川自工、三陽輸送株式会社（計19・順不同）

② ポスター掲示

期間中、以下の企業・団体等の事業所などにポスターを掲出していただきました。

○ご賛同いただいた企業・団体等

株式会社平和堂、甲賀高分子株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、大塚オー

ミ陶業株式会社、近江ユニキャリア販売株式会社、株式会社シガウッド、ビル管財株式会社、三和産業株式会社、有限会社天平フーズ、三協高圧株式会社、株式会社川嶋機械、滋賀県立八幡高等学校、社会福祉法人米原市社会福祉協議会

(計13・順不同)

13 有 功 会

日本赤十字社滋賀県支部有功会は、金色有功章を受章され、趣旨に賛同された方々により、昭和48年10月1日、会員58人で発足しました。平成9年から銀色有功章受章者まで会員範囲を拡大し、会員相互の親睦や健康の保持、赤十字思想の普及と重要業務の進展に協力し、人類福祉の増進に寄与することに努めています。

(1) 会員の数（個人・法人）

前年度末会員数	本年度新規会員数	退 会 者 (亡くなられた方を含む)	年度末会員数
349人	11人	28人	332人

(2) 事業内容

ア 有功会結成50周年記念総会の開催

7月28日(金) 10時より琵琶湖ホテルにおいて開催

97人出席

審議内容

- ・令和4年度有功会事業並びに収支決算報告書
- ・令和5年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）
- ・役員改選

アトラクション

びわ湖ホール声楽アンサンブル

イ 会員懇親会

7月28日(金)

総会終了後、同会場にて開催 92人出席

ウ 日赤紺綬・有功会会長協議会総会

10月12日(木) 15時～20時

広島市 ANAクラウンプラザホテル広島

エ 会員親睦旅行

11月1日(水)～2日(木) 1泊2日

長野県方面 上諏訪温泉「浜の湯」 19人参加

オ 会員健康診断

	2日（1泊）	1日
大津赤十字病院	15人	50人
長浜赤十字病院	2人	9人
合計	17人	59人

カ 大津赤十字看護専門学校卒業生に卒業記念品の贈呈

令和5年度大津赤十字看護専門学校卒業生32人に卒業記念品〔真空断熱ケータイマグ（水筒）を贈呈しました。

キ 青少年赤十字活動支援

滋賀県支部主催の「青少年赤十字メンバートレーニングセンター」参加メンバーと指導者計88人に対し、参加記念品（糸杉コットンバッグ、クリアファイル、リングメモ帳、青少年赤十字定規）を贈呈しました。

ク 災害救護活動支援

災害時に救護班が携行する水（24本）、非常食（24食）、災害救護物品を滋賀県支部へ寄贈いただきました。

ケ 国際活動事業の支援

NHK 海外たすけあい 支援金額 30,000円

コ 法人会員による「ACTION！防災・減災キャンペーン」への協力

協力企業 20社

滋賀双葉ビル整備 株式会社	株式会社 シガウッド
草津電機 株式会社	株式会社 川嶋機械
三和産業 株式会社	花文造園土木 株式会社
ビル管財 株式会社	株式会社 フジケン
近江ユニキャリア販売 株式会社	大塚オーミ陶業 株式会社
甲賀高分子 株式会社	三協高圧 株式会社
有限会社 天平フーズ	有限会社 宮川自工
三陽輸送 株式会社	三陽建材 有限会社
株式会社田中誠文堂	平和発條株式会社滋賀工場
株式会社藤田	関西ハム株式会社

サ 役員会等の開催

2月29日（木）

14時から日本赤十字社滋賀県支部会議室において開催

- ・令和5年度有功会事業報告並びに収支決算について
- ・有功会結成50周年特別募集のご報告について
- ・令和6年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）について
- ・令和6年度有功会親睦旅行について

14 一般会計決算概要

歳入

(単位：円)

科目	年度	令和5年度 決算	令和4年度 決算	比較増減	対前年度比 (%)	付記
1 一般社資収入		207,674,944	168,892,146	38,782,798	123.0	
2 法人社資収入		43,405,727	35,588,276	7,817,451	122.0	
3 委託金等収入		0	0	0	-	
4 補助金及び交付金収入		3,811,428	4,286,434	△ 475,006	88.9	施設整備交付金、現物給付ほか
5 繰入金収入		992,027	13,048,275	△ 12,056,248	7.6	国際救護活動資金繰入金
6 資産収入		0	193,100	△ 193,100	-	社宅収入
7 雑収入		2,268,647	2,054,734	213,913	110.4	利子収入、講習等負担金収入、青少年赤十字等行事参加収入ほか
8 前年度繰越金		50,187,317	62,108,792	△ 11,921,475	80.8	
歳入合計		308,340,090	286,171,757	22,168,333	107.7	

歳出

(単位：円)

科目	年度	令和5年度 決算	令和4年度 決算	比較増減	対前年度比 (%)	付記
I 災害救護事業費		36,359,167	26,103,910	10,255,257	139.3	
1 災害救護指導事業費		28,547,749	20,149,754	8,397,995	141.7	救護員の養成訓練、災害救助に要した費用
2 災害救護装備費		4,006,497	2,032,456	1,974,041	197.1	災害救護資材整備等に要した費用
3 非常災害救援物資整備費		815,571	0	815,571	-	
4 救護看護師指導養成費		2,989,350	3,921,700	△ 932,350	76.2	救護看護師の養成に要した費用
II 社会活動費		41,860,250	44,405,435	△ 2,545,185	94.3	
1 救急法等普及費		11,941,783	8,658,774	3,283,009	137.9	救急法、健康生活支援講習等の普及費用
2 奉仕団活動費		18,871,793	17,805,984	1,065,809	106.0	奉仕団育成に要した費用
3 青少年赤十字活動費		7,522,812	14,541,578	△ 7,018,766	51.7	青少年赤十字育成に要した費用
4 社会福祉活動費		95,740	89,460	6,280	107.0	社会福祉活動に要した費用
5 医療事業費		168,585	191,516	△ 22,931	88.0	衛生普及に要した費用
6 血液事業費		3,259,537	3,118,123	141,414	104.5	血液事業の普及等に要した費用
III 国際活動費		992,027	11,948,275	△ 10,956,248	8.3	国際赤十字社等による救援活動等に要した費用
IV 指定事業地方振興費		6,192,027	14,448,275	△ 8,256,248	42.9	
1 災害救護設備整備費		4,900,000	2,400,000	2,500,000	204.2	災害救護資機材に要した費用
2 支部国際活動基金積立金		992,027	11,948,275	△ 10,956,248	8.3	国際赤十字社等による救援活動等の資金積立に要した費用
3 募集事務費		300,000	100,000	200,000	300.0	社資募集に要した費用
V 地区区分区交付金支出		11,763,355	11,741,436	21,919	100.2	地区区分区に対する社員管理事務及び募集事務等に要した費用
VI 社業振興費		16,900,484	21,619,058	△ 4,718,574	78.2	広報及び社資募集に要した費用
VII 基盤整備交付金・補助金支出		16,020,000	21,200,000	△ 5,180,000	75.6	
1 施設操出金		5,000,000	10,000,000	△ 5,000,000	50.0	新型コロナウイルス感染症に対応する県内赤十字施設への支援費用
2 用途指定寄付金操出金		11,020,000	11,200,000	△ 180,000	98.4	医療施設への用途指定寄付金
VIII 総務・管理費		42,097,750	46,042,264	△ 3,944,514	91.4	給与費、庁舎管理等に要した費用
IX 本社送納金支出		35,783,796	27,695,375	8,088,421	129.2	本社社資送納金
X その他		100,371,234	60,967,729	39,403,505	164.6	
1 積立金支出		36,599,072	10,780,412	25,818,660	339.5	施設整備準備資金積立金、退職給与資金積立金
2 予備費		0	0	0	-	
3 翌年度繰越金		63,772,162	50,187,317	13,584,845	127.1	
歳出合計		308,340,090	286,171,757	22,168,333	107.7	

II 医療事業・医療施設特別会計決算概要

県内3つの赤十字病院において、災害時は、救護活動、平時には一般医療・救急医療・健康相談等医療社会活動を実施し、地域住民の医療確保と福祉の増進に努めています。

1 大津赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可病床	実働病床	医師	看護師	その他	計	延人数	一日平均	対前年平均比	延人数	一日平均	対前年平均比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
672	600	240.8	778.6	453.4	1,472.8	182,476	499	96.2	359,125	1,484	100.1

(2) 医療施設の経営状況

令和5年度の医業収益は、新入院患者の増加とDPC（診断群分類包括評価）Ⅱ期を意識した入院期間の推進により、入院診療単価が大きく増加、入院収益の増加につながり前年度比3.4億円増の212.5億円となりました。対する医業費用は、看護職員処遇改善評価料の影響や、事務職員数の増加、退職給付引当金の繰入額の計上などにより給与費が大きく増加し、前年度比6.3億円増の234.2億円となりました。以上により医業収支は前年度比2.9億円マイナスの21.7億円の赤字決算となりました。総収支においては、医業外収益に計上している新型コロナウイルス感染症関連補助金の段階的な縮小により、前年度比19.6億円マイナスの15.5億円の赤字決算となりました。

① 病院経営の健全化

令和5年度は以下の項目を重点目標として取り組みました。病床稼働率が目標90%に到達できず医業収支は依然大きな赤字となっていますが、紹介患者数、全身麻酔件数は目標を達成、また、達成とはならなかったものの新入院患者数、DPCⅡ期以内の退院割合は過去最高の実績となりました。

令和6年度は継続して高い数値目標を設定するとともに、病床稼働率を意識した入院期間の推進により収支改善に向けて取り組んでいく予定です。

・重要業績評価指標（KPI）

ア 新入院患者数	実績：46.9人/日	（目標：50人/日）
イ DPCⅡ期以内の退院割合	実績：68.5%	（目標：70.0%）
ウ 病床稼働率	実績：81.9%	（目標：90.0%）
エ 紹介患者数（検査紹介除く）	実績：18,977人/年	（目標：18,000人/年）
オ 全身麻酔件数	実績：2,340件/年	（目標：2,160件/年）

・手術件数、全身麻酔件数の増加

ア 手術件数	実績：7,118件	（対前年度：+68件）
イ 全身麻酔件数（再掲）	実績：2,340件	（対前年度：+182件）

② 新型コロナウイルス感染症対策

感染症法上の取扱いが令和5年5月より5類に移行されたことに伴い、医療用コンテナによる診察の終了や新型コロナ専用病床の閉鎖など、社会の動向に併せて感染対策を緩和しています。ただし、面会の制限や罹患患者の隔離、手指消毒の推進、マスクの着用など、医療機関として一定の制限を残した感染対策を継続して実施しています。

③ 医療の質および機能の充実

ハード面においては、外来棟2階の内科系診療ブースの拡張、MRI装置の更新、産科病棟一部改修によるLDR（陣痛、分娩、回復を同エリアで対応するスペース）整備を行い、診療体制の充実と機能向上、患者サービス向上を図りました。ソフト面においては、病院機能評価の受審に併せた病院理念の見直し、病院ホームページの更新など、目標の明確化と情報発信ツールの拡充に向けた取り組みを実施しました。

令和4年度に認定されたDPC特定病院群指定維持のため、令和5年度も診療密度や手術アクティビティの向上、重篤な内科症例の増加に努めてきました。これら要件は満たしたものの、結果として一部の指標（補正複雑性係数）の要件をクリアすることができず、令和6年度から2年間はDPC標準病院群となります。2年後に再取得できるよう引き続き診療機能、医療の質の向上に取り組んでいきます。

④ 地域との医療連携

地域医療支援病院として地域の協力医療機関との連携強化のために開業医訪問を活発に行い、また、コロナ禍によりWeb形式で開催していた「地域医療連携懇話会」や「市民のためのがん講座」を今年度は集合形式で開催するなど、地域との関係づくりに努めました。

令和5年7月からは患者支援センターを開設し、入院前支援、服薬支援、退院支援・調整、かかりつけ医相談、総合医療相談、病床管理の6つのサポート機能を充実させ、よりスムーズな入退院や患者サービス向上を目指して取り組んでいます。

⑤ 救急医療・災害医療への対応

高度救命救急センター、総合周産期母子医療センターとして、高度医療体制の充実に向け引き続き取り組みました。令和5年10月からはラピッド・ドクターカー（消防局からの要請を受けて出動し、指定された場所に赴いて医療活動を行う）の運用を開始し、今年度は192件の出動、医療活動を実施しました。また、救急搬送受入患者数は前年度比317件増の7,875件となり、大津医療圏の救急医療の拠点として地域医療の貢献に努めています。新生児専用のドクターカーの出動件数は、121件で前年度から10件増加しています。

災害医療としては、県下の基幹災害拠点病院および原子力災害拠点病院として、院外で開催された各種訓練への参加、院内では赤十字救護班基礎教育研修会の開催、大規模災害時傷病者受入訓練の実施など、有事に備えた対応を行いました。

令和6年1月に発災した能登半島地震に際しては、赤十字救護班、DMAT、災害医療コーディネーターチーム、こころのケアチーム、被災医療機関に対する支援要員を派遣するなど、救護活動に尽力しました。

⑥ 人材育成と確保、職場環境の改善

令和6年4月法改正の医師の働き方改革における特定地域医療提供機関（B水準）の指定申請に向けて「労働時間短縮計画」を策定し、医療機関勤務環境評価センターの審査を受審しました。その結果、労働時間短縮に向けた取り組みが進んでいると評価を受け、B水準医療機関として県より指定されています。

今後は、労働時間短縮計画をもとに医師の労働時間短縮及び負担軽減を図り、医師事務作業補助者の積極活用やタスクシフト等を推進しながら、経営改善に寄与できるよう取り組んでいきます。

⑦ 接遇、満足度（来院者・職員）の向上

前年度に続き、病院機能評価機構の患者満足度調査に参加し、アンケートの調査結果を他施設と比較することにより、患者サービス向上のための対策に活用しています。

職員に対しては、接遇研修の開催や、アンケートによるハラスメント関連の実態調査の実施、院内報でのハラスメント防止やメンタルヘルス関連記事の掲載など、働きやすい職場環境の醸成に努めています。

(3) 施設等整備

MRI装置の更新、外来棟改修工事（内科系診療ブース、患者支援センター、医療情報課、神経科外来）、エレベーター制御リニューアル工事、産婦人科病棟一部LDR工事など、機能及び患者サービス向上のための整備を実施しました。

(4) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和5年度決算額	令和4年度決算額	比較増減	対前年度比 (%)
病院収益	22,441,943	23,767,971	△ 1,326,027	94.4
医 業 収 益	21,249,221	20,908,589	340,633	101.6
医 業 外 収 益	1,117,117	2,792,914	△ 1,675,796	40.0
医療社会事業収益	0	0	0	-
付 帯 事 業 収 益	69,004	66,461	2,544	103.8
特 別 利 益	6,600	7	6,593	89,820.3
病院費用	23,987,896	23,353,692	634,204	102.7
医 業 費 用	23,415,479	22,781,996	633,483	102.8
医 業 外 費 用	207,128	237,789	△ 30,661	87.1
医療奉仕費用	199,712	176,749	22,963	113.0
付 帯 事 業 費 用	162,418	153,915	8,502	105.5
特 別 損 失	3,488	4,023	△ 536	86.7
法 人 税 等	△ 328	△ 781	453	42.0
収支差引額	△ 1,545,953	414,278	△ 1,960,231	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	80,316	固定資産	788,558
資産売却収入	0	借入金等償還	11,368
その他資本収入	719,609		
計	799,925	計	799,925

2 大津赤十字志賀病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数				入院患者数			外来患者数		
許可病床	実働病床	医 師	看 護 師	そ の 他	計	延 人 数	一 日 平 均	一 日 平 均 対 前 年 比	延 人 数	一 日 平 均	一 日 平 均 対 前 年 比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
150	150	17.7	84.4	60.0	162.1	35,086	95.9	108.5	54,752	226.6	92.5

(2) 医療施設の経営状況

令和5年度は医業収益が6.8%の減収であり、内訳としては入院診療収益マイナス0.8%・外来診療収益マイナス15.2%

- ・保健予防活動収益マイナス1.4%でした。医業費用は2.5%増加しましたが、材料費は1.7%減少し、給与費はプラス4.7%と対医業収益81.1%とより高い比率となりました。

新型コロナウイルス感染症患者の入院患者数の減少と、モバイルクリニックを使用した発熱関連の外来患者数は大幅な減少であり、その結果、医業収支は4億3千6百万円のマイナスとなりましたが、総収支は県・大津市保健所等の一部補助事業もあり1億6千8百万円のマイナスとなりました。

① 医師及び看護師の確保

令和5年度の医師確保状況は年度末退職1人に対して年始に内科系医師1人を採用いたしました。ただし、依然として内科系医師の欠員状態は解消しておりませんので、医師確保は引き続き最優先課題です。看護師の確保については2人の採用がありましたが、年度途中の退職には対応ができませんでした。また、病欠や産休などの対応も困難さを増し、夜勤のできる看護師が不足する状況となりました。次年度に向けては看護師の確保及び看護補助者の確保にも注力する予定です。

② 健全経営の推進

地域包括ケア病棟は年間平均72.6%の稼働率を維持できましたが、急性期病棟は感染症対応したこともあり年間平均51.6%、療養病棟は67.6%と落ち込みました。

また、外来診療収益においては、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたため、発熱外来の患者減により大幅な減収となりました。コロナ禍が明けましたが、患者の受診控えが継続し入院患者数が伸び悩みました。病院を挙げて入院患者の確保に努め病床稼働率の向上に力を注ぎたいと考えております。

③ 病院機能のあり方

2025年超高齢化社会の到来に対応するために、2病棟で運営してきた急性期病棟のうち1病棟を2014年に地域包括ケア病棟に改編し急性期（2F50床）、回復期（3F50床）、慢性期（4F50床）の届出を行い、病棟運営を行っております。

地域医療構想の動向も確認しながら、現在の病院機能（急性期～慢性期）を最大限発揮できるよう積極的に救急医療や地域連携に取り組むと共に安定した病床運営を心

掛けてまいります。また、今後新たに発生するかもしれない新型コロナウイルス感染症のような新興感染症にも行政からの要請には積極的に対応し外来診察機能、感染者病床の確保を行うこととしています。

④ 施設整備・修繕、医療器械の新規購入・更新

乳房検査用マンモグラフィーの更新や、老朽化した調理場の空調機器更新を行いました。

また外来診療における発熱患者の対応をするために、受付や待合に空気清浄機を設置いたしました。今後も計画的に医療器械の更新や施設の修繕を実施することとしております。

⑤ 病診連携と介護施設との連携強化

令和5年度は診療所からの診察紹介が970件、またCT検査・MRI検査等の検査紹介が1846件と前年度の1787件より僅かに増加しました。検査結果を迅速に開業医へ返すということを徹底し信頼を得られるよう取り組みました。介護福祉施設との連携では施設で急変した利用者の受入れに関する協定を数施設と締結し連携強化を図りました。

⑥ 地域住民への情報発信

平成28年度からの取り組みを継続して「志賀日赤の健康教室」を和邇文化ホールにて年4回開催し、そのうちの1回を社会福祉協議会志賀ブロックと共催し、11月に地元住民との交流の場として「健康いきいき祭り」に参加しました。

本院が担当させていただいたのは職員が血圧測定や骨密度測定などのブースを設け来場者の健康状況のチェックを行いました。

また、本院発行の広報誌「志賀日赤だより」の地元自治会のご協力を得て行ってきた全戸配布を継続して行いました。

さらに、地元のまちづくり協議会の運営する「わにコミュニティーバス」の運行の協力や講演会の依頼を受け赤十字についての講演を行いました。

⑦ 在宅医療への取り組み

訪問診療や訪問リハビリ等の在宅への介入により、可能な限り住み慣れた自宅や地域で療養したいという、患者や家族の希望に対応し在宅での自立支援を医師・看護師・理学療法士等が連携しサービスの提供に取り組みました。その件数は決して多くはありませんが、希望する患者や家族からは良好な評価をいただいています。

⑧ 初期研修医教育及び学生実習

天津赤十字病院より初期研修医の地域医療の実習を1カ月交替にて13人の研修医を受け入れました。

また、自治医科大学、滋賀医科大学の医学生の実習は新型コロナウイルス感染症の蔓延後は再開されておりましたが、依頼があれば積極的に受け入れることとしています。看護学生の病院実習については、令和5年度も華頂看護専門学校の学生の実習受け入れを行いました。

⑨ 災害救護活動への参加

災害救護訓練は、第四ブロックでの災害訓練への参加と新型コロナウイルス感染症拡大以降中止しておりました院内での災害時傷病者受入訓練を再開しました。

1月に発生した令和6年能登半島地震へも大津赤十字病院との合同派遣で2人の救護員とこころのケア要員1人を派遣しました。

⑩ 大津市北部僻地への医師及び看護師の派遣

大津市保険年金課が運営する大津市葛川診療所への医師派遣を引き続き実施しました。毎週火曜日に医師1人、看護師1人を派遣し、医療の空白地域で高齢化が進む葛川地区の住民のいのちと健康を守るために赤十字の使命として、大津市からの要請に対応しています。令和6年度も継続して派遣することにしております。

(3) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和5年度決算額	令和4年度決算額	比較増減	対前年度比 (%)
病院収益	2,111,260	3,015,204	△ 903,944	70.0
医 業 収 益	1,833,527	1,967,009	△ 133,482	93.2
医 業 外 収 益	275,489	1,048,195	△ 772,706	26.3
医療社会事業収益	0	0	0	—
付 帯 事 業 収 益	0	0	0	—
特 別 利 益	2,244	0	2,244	0.0
病院費用	2,279,662	2,384,556	△ 104,894	95.6
医 業 費 用	2,269,608	2,308,982	△ 39,374	98.3
医 業 外 費 用	955	60,655	△ 59,700	1.6
医療奉仕費用	8,928	9,985	△ 1,057	89.4
付 帯 事 業 費 用	0	0	0	—
特 別 損 失	171	4,934	△ 4,763	3.5
法 人 税 等	0	0	0	—
収支差引額	△ 168,402	630,648	△ 799,050	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	3,635	固定資産	34,668
資産売却収入	0	借入金等償還	185
その他資本収入	31,218		
計	34,853	計	34,853

3 長浜赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数				入院患者数			外来患者数		
許可 病床	実働 病床	医 師	看 護 師	そ の 他	計	延 人 数	一 日 平 均	一 日 平 均 対 前 年 比	延 人 数	一 日 平 均	一 日 平 均 対 前 年 比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
492	455	103.7	598.3	251.3	953.3	136,750	374	99.2	233,238	959.8	98.0

(2) 医療施設の経営状況

• 収支の推移

入院・外来ともに患者数が減少しましたが、高額手術件数の増加などの影響で診療単価が増加し、医業収益は増収となりました。

対する医業費用では、医薬品費の増加や他材料費の高騰もあり材料費が2.2%増加し、給与費では、職員費は減少しましたが、退職給付会計における決算整理の増加による影響で1.8%増加となりました。設備関係費では、減価償却費の増加および修繕費・器機保守料の増加の影響で13.3%増加となりました。委託費については、新型コロナウイルス感染症対策のためR4年度まで増加していた寝具委託費・清掃委託費が減少しましたが、夜間看護体制維持による看護助手委託費や保守委託費で増加となり、0.4%微増となりました。経費では、水道光熱費の見直し等で17.3%の減少となりました。

医業収支は、収益が増加となりましたが、費用も増加したことから、10億8千7百万円の赤字となりました。

医業外を含む総収支では、新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業補助金(約6億円)等の交付もあり、6千万円の赤字決算となりました。

• 患者数と病床利用率の推移

入院診療日数366日・外来診療日数243日と共に前年度比1日増でしたが、入院患者数・外来患者数は共に対前年度比減少となりました。

病床利用率は、4東病棟をコロナ対応病床としていたこともあり、コロナ前までの回復はありませんでした。また、10/1より1病棟閉鎖し、看護師の配置を見直すとともに稼働率UPを目指しましたが、79.0%にとどまりました。

• 診療単価の推移

入院診療単価は、平均在院日数の短縮・高額手術件数の増加・DPC係数UP等により増加となりました。(前年度比873円増)

外来診療単価も微増となりました。(前年度比136円増)

① 経営健全化の推進

R4年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、受入れ病床24床(うち重症7床)を確保しつつ、地域の医療機関との連携体制を図るとともに湖北地域の中核病院として急性期医療を推進し経営改善に努めました。

経費の節減として病棟を1病棟閉鎖し、看護師配置を見直し、人件費の削減を目指しました。また、購入物品の見直しと配置定数の見直しを行いました。

1. 新入院患者数……………10,543人 2. 平均在院日数…………… 11.6日

3. 病床稼働率……………79.0%	4. 紹介患者数……………16,359人
5. 紹介率、逆紹介率……67.2%、73.0%	6. 救急搬送入院率……… 40.5%
7. 手術件数…………… 4,178件	8. 全身麻酔件数…………… 2,276件

② 新型コロナウイルス感染症5類移行後の対応

R5年5月の新型コロナウイルス感染症5類感染症移行に伴い、院内感染対策の見直しを行いました。最新の知見を基に、検査実施や个人防护具着用の基準を設けるなど、患者とスタッフが安心して医療が提供できる体制を整備しました。また、禁止していた面会を再開し、その際には、面会時間枠を設けるなど感染対策とセキュリティー対策が取れる方法に変更しました。

5月以降も第2種感染症指定医療機関として、外来や救命救急センターで新型コロナウイルス感染症患者の診療を行いました。流行期には病床を確保し人工呼吸器の使用が必要な重症患者や、精神科・小児科・透析患者・妊婦の方の入院受け入れを行いました。

また、地域では感染対策チームが医院や介護施設を訪問し、ゾーニングなどの感染対策について説明しました。

今後も地域の皆さまに、安全で安心な医療を提供できるように取り組みたいと考えています。

③ 原子力災害医療体制の強化と災害救護体制の充実

基幹原子力災害拠点病院である当院は、災害対策本部運営訓練と被ばく傷病者受け入れ訓練を実施しました。また、院内及び滋賀県下の協力機関を対象に原子力災害医療対応基礎研修を2回実施し、防護衣の着脱や養生訓練などを実施し、原子力災害医療体制の強化を図りました。

院内大規模災害訓練では、昨年引き続き、双方向通信・情報共有ができる電子ホワイトボードを用い、各エリアと本部と情報のやりとりをおこなう訓練を実施しました。訓練には傷病者役の看護学生など院外からの参加者も含め、233人が参加し実施しました。また救護班研修においては49人の救護員を養成出来、救護スキルの向上を図ることができ、地域や政府訓練などに救護班・訓練コントローラーを派遣し、災害救護体制の充実と強化を図りました。

R6年能登半島地震においては、救護班（5個班）、日本DMAT（1隊）、DMATロジスティックチーム（1チーム）、日赤コーディネーターチーム（1チーム）、こころのケア班（1班）、こころのケア調整班（1班）、災害支援ナースに4人と、当院から延べ62人の職員を派遣し、災害医療に尽力しました。

④ ドクターカー事業

ドクターカー事業も2年が経過し、R5年度は、326件出動しました。また、湖東医療圏の重症外傷事案にも対応できるように彦根市消防本部と協定を結びました。1分でも早く診断・治療を開始し、一人でも多くの命を救い、病気やけがによる後遺障害を少なくすることを目指し、救命医療向上に尽力しました。

(3) 施設等整備

施設整備としては、入退室管理設備・本館無停電装置（UPS）の更新を行いました。

機器整備としては、医療用器械備品を一部補助金を財源とし、術中電子リニアプローグ（支部繰入金）、シンチレーションサーベメータ（原子力災害拠点病院等施設設備整備補助金）、陰圧監視装置ルームプレッシャー（日本赤十字社医療施設支援事業）他8点を整備し、また自己資金にて人工透析装置・グリコヘモグロビン分析装置など全53点を整備しました。

その他器械備品としては、複合機など全5点を整備しました。

車両としては、ドクターカー（トヨタRAV4）を整備しました。

無形固定資産のソフトウェアは、健診システムの更新などを行いました。

(4) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和5年度決算額	令和4年度決算額	比較増減	対前年度比 (%)
病院収益	14,379,239	17,211,505	△ 2,832,266	83.5
医 業 収 益	13,043,880	13,003,221	40,659	100.3
医 業 外 収 益	1,243,139	4,108,562	△ 2,865,423	30.3
医療社会事業収益	4,459	5,483	△ 1,024	81.3
付帯事業収益	87,761	94,239	△ 6,478	93.1
特 別 利 益	0	0	0	-
病院費用	14,439,570	14,181,618	257,952	101.8
医 業 費 用	14,131,830	13,798,439	333,391	102.4
医 業 外 費 用	15,504	85,018	△ 69,514	18.2
医療奉仕費用	184,528	181,057	3,471	101.9
付帯事業費用	107,415	102,219	5,196	105.1
特 別 損 失	293	14,885	△ 14,592	2.0
法 人 税 等	0	0	0	-
収支差引額	△ 60,331	3,029,887	△ 3,090,218	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	9,139	固定資産	296,132
資産売却収入	0	借入金等償還	216,444
その他資本収入	503,437		
計	512,576	計	512,576

Ⅲ 血液事業概要

滋賀県赤十字血液センター

血液製剤の均質性・安全性の向上と安定供給の促進及び事業効率の改善を通じた健全な経営基盤の構築を目的として広域血液事業運営体制が導入され、近畿ブロック血液センターの令和5年度事業方針に基づき事業を遂行しました。

特に、将来にわたって安定供給を確保していくため、10代、20代、30代の若年層献血者数を増加させていく必要があります。若年層からの献血への理解を得るために、同世代の学生献血推進協議会や各種学生団体と最大限に連携し、初回献血者、複数回献血者数の確保を積極的に行いました。

医療機関から発注される赤血球製剤の95%以上が400mL製剤であることから、400mL献血を推進した結果、全血献血に占める400mL献血の比率は97.1%となりました。あわせて、稼働数の増加は採血本数の増加に直結し財政基盤の安定化に不可欠であることから、更なる増加を目指した結果、移動採血の稼働数は前年度の708稼働から738稼働へと増加しました。

本年度の献血者数は54,421人、前年度比102.4%となり、2年連続の前年度比増加となりました。輸血用血液製剤の供給数は174,991単位で前年度に比べ107.0%となりました。

滋賀県は全血採血に優位な採血環境であり、全血献血については県内需要を上回る採血を行いました。また、成分採血における自給率は低いものの、分割血小板採血の増加等により、県内医療機関には安定的に輸血用血液製剤を供給しました。

(1) 献血及び供給状況の推移

年 度	献 血 状 況		供 給 状 況	
	献血者数（人）	対前年度比（％）	供給数（単位）	対前年度比（％）
令和元年度	50,073	104.8	175,300	109.1
令和2年度	53,176	106.2	160,979	91.8
令和3年度	51,368	96.6	171,170	106.3
令和4年度	53,164	103.5	163,576	95.6
令和5年度	54,421	102.4	174,991	107.0

(2) 令和5年度採血の実績

献血者数

	計画（人）	実績（人）	達成率（％）	対前年度比（％）
200mL献血	493	1,304	264.5	96.2
400mL献血	42,892	42,983	100.2	104.2
血漿献血	4,820	5,244	108.8	91.4
血小板献血	4,617	4,890	105.9	101.7
計	52,822	54,421	103.0	102.4

※400比（全血献血に占める400mL献血の比率） 97.1%（令和4年度：96.8%）

(3) 令和5年度供給の実績

供給（県内医療機関への供給単位数）

	計画（単位）	実績（単位）	達成率（％）	対前年度比（％）
全血製剤	0	0	－	－
赤血球製剤	63,200	67,994	107.6	106.1
血漿製剤	16,560	18,797	113.5	108.2
血小板製剤	79,100	88,200	111.5	107.4
計	158,860	174,991	110.2	107.0

※血液製剤は、200mL相当を1単位とした換算数である。

(4) 滋賀県における献血／供給比率

赤血球製剤

年 度	献血（単位）	供給（単位）	献血／供給（％）
令和元年度	77,663	62,744	115.1
令和2年度	81,120	59,843	135.6
令和3年度	78,401	64,270	122.0
令和4年度	83,886	64,090	130.9
令和5年度	87,270	67,994	128.3

血小板製剤

年 度	献血（本）	供給（本）	献血／供給（％）
令和元年度	4,889	9,156	58.2
令和2年度	4,958	8,340	59.4
令和3年度	4,930	8,684	56.8
令和4年度	4,807	8,148	59.0
令和5年度	4,890	8,793	55.6

※平成26年度より血小板高単位献血（20単位）からの分割製剤（10単位2本）施行

(5) 献血推進の取組み

① 愛の血液助け合い運動

7月1日から31日まで、国・県・日本赤十字社の主催により、多数の後援団体、協賛団体の協力を得て全国一斉に行われました。当県では例年「献血功労者表彰式」を開催しており、令和5年度は7月27日にピアザ淡海ピアザホールにて開催しました。

② 全国学生献血キャンペーン

滋賀県学生献血推進協議会が7月に「学生サマー献血キャンペーン」をJR近江八幡駅において、12月に「全国学生クリスマス献血キャンペーン」を石山商店街およびJR近江八幡駅においてそれぞれ開催しました。血液が不足する時期でのキャンペーンは効果的であり、大学生たちが同年代の若者に献血への理解と協力を呼びかけました。

③ はたちの献血キャンペーン

1月1日から2月28日まで、(社)日本民間放送連盟・(社)日本民営鉄道協会・(社)日本コミュニティ放送協会の後援を得て、上野凱さん、吉田凜音さん、森田想さん、RYOYAさんをキャンペーンキャラクターに起用し実施しました。

滋賀県赤十字血液センターは、期間中にご協力いただいた方へオリジナルステッカーセットをプレゼントするなど若年層を中心とした献血の推進に努めました。

④ 若年層対策事業

＜献血セミナーの強化＞

高校生に対する献血推進を重点的に進めるため、高校生を対象とした献血セミナーを26回実施しました（令和4年度は24回）。従来型の一方向的なセミナーではなく、献血に関するスピーチを学生に考えてもらうような双方向セミナーを行いました。

また、滋賀県赤十字血液センターは若年層確保対策事業として、滋賀県と協働した取り組みを行っています。

＜キャンペーンの実施＞

計3回、学生を対象としたキャンペーンを実施しました。

- 期 間：7月～8月
対 象：学生（先着350人）
記念品：モバイルバッテリー
主 催：滋賀県
- 期 間：9月～11月
対 象：学生（先着2,000人）
記念品：モバイルバッテリー
主 催：血液センター
- 期 間：12月～3月
対 象：高校生（先着1,000人）
記念品：モバイルバッテリー
主 催：滋賀県

⑤ 映画『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』とのタイアップ企画

埼玉県と滋賀県を舞台とした映画『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』が公開されたことから、11月23日から1月31日までの期間、東映株式会社とのタイアップ企画として、埼玉県赤十字血液センターと合同で『翔んで献血キャンペーン』を実施しました。期間中、予約をした上で献血にご協力いただいた方にオリジナルキーホルダー（先着500個）の配布を行いました。キャンペーンは非常に多くの方からご好評をいただき、予定よりも1か月以上早い12月8日時点で全てのキーホルダーの配布を終了しました。